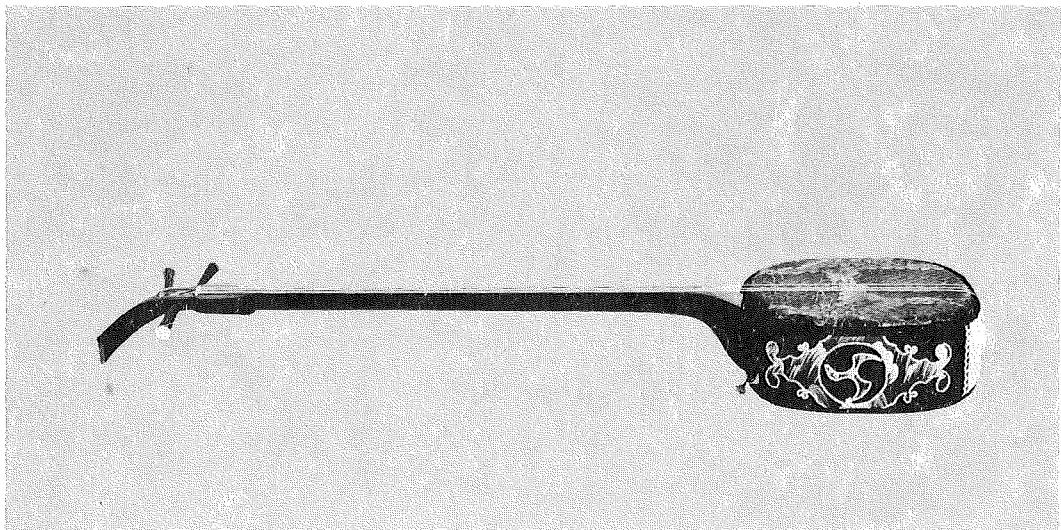


I S S N 0 3 8 5 - 0 2 9 3

沖縄県立博物館年報

No. 16



1 9 8 3

沖縄県立博物館



目 次

序	館長 大城立裕
沿革	1
日誌 (抄)	3
施設・設備	8
組織	10
予算	12
事業	13
(1) 常設展	13
(2) 企画展	16
(3) 特別展	21
(4) 移動博物館	27
(5) 教育普及	30
(6) 資料貸出	31
(7) 煉蒸	31
(8) 調査研究	32
(9) 刊行物	34
入館者数	35
収蔵資料	37
(1) 昭和57年度収蔵資料	37
(2) 収蔵資料現在高	37
(3) 昭和57年度新収蔵品目録	38
(4) 図書寄贈者一覧	40
(5) 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表	46
当館関係条例規則 (抄)	47

※表紙写真 三味線盛嶋開鐘

序

40

20.8

沖縄県立博物館は総合博物館であります。ただ、その成り立ちの経緯としては、郷土美術工芸をメインとして出発し、その後歴史、民俗、自然としだいに加えてきました。そして、自然史の展示室を昭和57年5月7日に開くことができました。その展示、収蔵資料はほとんど寄贈に仰いだものであります。

資料のストックがいよいよ増大してきました。新収蔵品として、尚家伝来の名器「三味線盛嶋開鐘」、山内盛彬翁による「野村風工工四」ほか諸氏の工工四、港川人頭骨（レプリカ）や多数の動植物、地質標本の寄贈をいただき、冊封使汪楫や徐葆光や郷土の書家鄭嘉訓などの書に加えて歴史、工芸、自然史などの資料を購入しました。点数にして、この10年間で4倍に上っています。

移動博物館は、離島や遠隔地の人々のために企画したことですが、この一年間に伊江村と本部町で開催して成果をあげました。

特別展「熊本県の歴史と文化」は、熊本県との交流展として催したものであり、両県の文化交流と親交とに大きく貢献したものと信じます。

その他、長い伝統となった文化講座や学芸員の研究業績等、限られた条件のなかで地域博物館としての成果をあげていますが、総合博物館として宿題がないわけではありません。ジャンルの上で機械文明の分野をどう加えるか、あるいは郷土文化から世界文化へ視野をどうひろげるか、などの問題もあります。とりあえずの急務として、施設の拡充が痛感されます。

ここに年間の成果をふくめて、当館の現状を報告するために、年報を刊行します。大古の御理解と御助言、御協力をたまわれば幸いです。

昭和58年8月

沖縄県立博物館長 大城立裕

32

15

沿革

(戦前)

- 1936年7月 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」が首里城内北殿を使用して開館される。文化財が数千点収蔵されていた。
- 1945年3～5月 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」全焼。

(戦後)

- 1945年8月 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」が設立される。
- 1946年3月 首里で首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、「沖縄郷土博物館」が設立される。
- 1946年4月 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」と改称。館長に大嶺薰就任。
- 1947年12月 首里市の沖縄郷土博物館は沖縄民政府に移管され「首里博物館」と改称。館長豊平良顯就任（1948年3月退職）
- 1948年8月 首里博物館長に館長原田貞吉就任
- 1953年5月 首里博物館は首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。
首里博物館と東恩納博物館が合併。館長は原田貞吉、大嶺薰は退職。
- 1955年5月 館長原田貞吉退職。
- 1955年8月 館長山里永吉就任
- 1955年9月 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。
- 1958年8月 館長山里永吉退職
- 1958年9月 館長金城増太郎就任
- 1961年12月 館長金城増太郎退職
- 1962年2月 館長大城知善就任
- 1965年 首里大中町尚家跡土地購入（195,751ドル）
- 1966年10月 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建（3,294m²、1階356,000ドル）の新館が落成移転。
- 1966年12月 中央教育委員会規則第58号「琉球政府立博物館管理規則」「琉球政府立博物館施設使用規則」、同59号で「琉球政府立博物館の職員の勤務時間及び勤務時間の割振りに関する規則」制定、入館料大人10仙、学生5仙、児童生徒2仙、団体2割引徵収決まる。

- 1967年12月 「琉球政府立博物館運営協議会規則」制定。
- 1969年3月 「琉球政府立博物館館報」創刊。
- 1969年11月 館長大城知善退職
- 1969年12月 館長外間正幸就任
- 1972年5月 日本復帰に伴い、館名を「沖縄県立博物館」と改称。
- 1973年2月 国庫補助を得て 1,571 m² (102,484千円のうち25,621千円国庫) 2階を増築。展示室が3室ふえる。
- 1976年4月 創立30周年記念事業挙行。
- 1979年4月 入館料一般50円を100円に、大学・高校生を50円に、中小学生10円を20円に。また、特別企画展の入館料は500円を超えない範囲内でその都度決めるように改正。
- 1979年8～12月 空調・防災総替え工事2か年計画で着工、初年度は展示室のみ完了。
- 1980年1月12～2月3日 「救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」開催
- 1980年2月 第1回移動博物館、久米島具志川村、仲里村、両教委と共に。
- 1980年3月 「沖縄県立博物館総合調査報告書—粟国島（あぐにじま）」創刊。
- 1980年10月 1979年度より2か年計画で定めた空調等総替え工事完了。
- 1980年5月16～18日 第2回移動博物館、今帰仁村、同教委と共に。
会場 今帰仁村中央公民館
- 1980年11月1～30日 「失われた生物たち一大恐竜展」琉球新報、日本対外文化協会、ソ連科学アカデミーと共に。
- 1981年3月30日 当館、博物館法に基づき登録される。
- 1981年4月1日 館長外間正幸退職、同日館長に大城徳次郎就任。
- 1981年5月15～17日 第3回移動博物館（粟国村、同教委と共に）
会場 粟国村公民館
- 1981年5月22～24日 第4回移動博物館、渡名喜村、同教委と共に。
会場 渡名喜村中央公民館
- 1981年10月17～11月15日 「沖縄の美—日本民芸館蔵—」展、併催「戦前の沖縄写真」展、沖縄タイムス、日本民芸館と共に。
- 1982年5月22日～23日 第5回移動博物館（伊江村、伊江村教委共催）が伊江村で開催
- 5月28日～30日 第6回移動博物館（本部町、本部町教委共催）が本部町で開催
- 10月30日～11月28日 熊本県・沖縄県交流展「熊本県の歴史と文化」開催

新年度
昭和58年4月1日(13)
59年3月31日

日誌 (抄) (昭和57年4月1日～昭和58年3月31日)

- 4月1日 渡名喜明文化課専門員へ、比嘉ミツ奥武山競技場へ転勤。幸地右雅（庶務係長として）奥武山競技場から、上江洲敏夫文化課から転勤。
- 2 自然史展示室開設準備委員会。
- 3 竹下虎之助広島県知事来館。
- 6 仲嶺俊子さんへ感謝状贈呈。
- 17 第94回博物館文化講座「沖縄の民俗芸能」講師宜保榮治郎氏。自然史展示検討委員会。
- 18 沖縄民俗研究会。
- 20 大城館長、上江洲学芸係長、大城、知念学芸員等熊本へ出張。
ペルーのフランスシコ・ゴリオ参議員外6名来館。
- 22 九州市議会議長会200名来館。
- 24 池原貞雄氏退館記念講演会。
- 25 化石シカのレプリカ搬入組立（長谷川善和、小村氏協力）。
- 28 尚美堂の松本氏より台湾キヨン剥製を寄贈。
- 5月1日 日本民芸館長柳宗理氏、東京女子美大学長柳悦孝氏来館。
- 6 看護学校生19名来館（見学・講議）。
- 8 沖縄タイムス関連論説委員全国担当者会議一行来館。
- 9 沖縄民俗研究会。
- 11 新収蔵品展開催（7月4日まで）。
- 12 日本専売公社総裁 泉美之松氏来館。
- 14 国分直一梅光女学院大学教授、三島格前福岡市資料館長来館。
- 15 全国市議会議長会長門田武雄氏来館。日本民族学会沖縄大会出席者来館。
- 18 県警本部長 寄崎喬氏来館。
- 22 第5回移動博物館開催、23日まで（於 伊江島、入場者総計1,604人）。
- 26 福島県教育長、同財務課長来館。
- 27 海上自衛隊63名来館。
- 27 新潟県知事夫人来館。
- 28 第6回移動博物館開催、30日まで（於 本部町）
海上自衛隊員63名来館。
- 6月1日 徐萃芳中国社会科学院考古研究第三室主任外9名来館。
- 2 オランダの考古学者ウォーターボルダ氏来館。

- 12 友の会役員会。
- 13 沖縄民俗研究会。新匠工芸会々員伊砂利彦氏外11人来館。
- 16 与古田氏（首里山川在）より石彫品残欠、世持橋勾欄石材など収集。
- 17 友の会役員会。
- 19 県立博物館友の会総会。
- 24 ガールスカウト日本連盟の曾我千代子氏外来館。
- 26 第95回博物館文化講座「沖縄の野鳥をたずねて」講師友利哲夫氏。
- 7月2日 日中国交正常化友好10周年記念撮影打ち合わせのため張慶鴻監督他5人来館。
沖博協理事会（於 沖縄子どもの国）
- 3 昆虫展展示検討委員会。
- 5 煙蒸、展示替えのため休館。中国の撮影隊来館。
- 6 定期収蔵庫煙蒸（7日まで）。
- 10 昆虫同好会。
- 11 沖縄民俗研究会。
- 12 高良拓夫氏より沖縄産シダ植物標本850点寄贈される。
- 13 常設展開催。
- 16 沖博協総会ならびに研修会（於 沖縄子どもの国）。
- 19 知名定義氏より（民俗資料2点、戦争資料3点、陶器資料1点）寄贈あり。
- 27 企画展「沖縄の昆虫」開催（8月26日まで）。
- 30 徳島県議会総務委員会15名来館。
- 31 第96回博物館文化講座「昆虫の野外観察」講師長嶺邦雄他沖縄昆虫同好会会員。
(於 末吉公園)。
- 8月4日 熊本県・沖縄県交流展のため記者会見。
- 5 西宮大谷記念美術館川辺氏来館。
- 8 第97回博物館文化講座「陶芸教室」講師宮城勝臣氏。
- 11 友の会だより編集会議。
- 14 長崎県の西家資料寄贈の記者会見（池宮正浩氏）。
- 16 大山朝英氏（那覇市松川在）より厨子ガメ2基寄贈。
- 8月19日 大蔵省沖縄県支部関係者60名来館。
- 25 国会参議員内閣委員会各委員伊江朝雄氏一行来館。
- 26 新垣教育長来館及び視察。
- 28 沖縄昆虫同好会。
- 29 自然標本鑑定会。沖縄両生は虫類研究会。

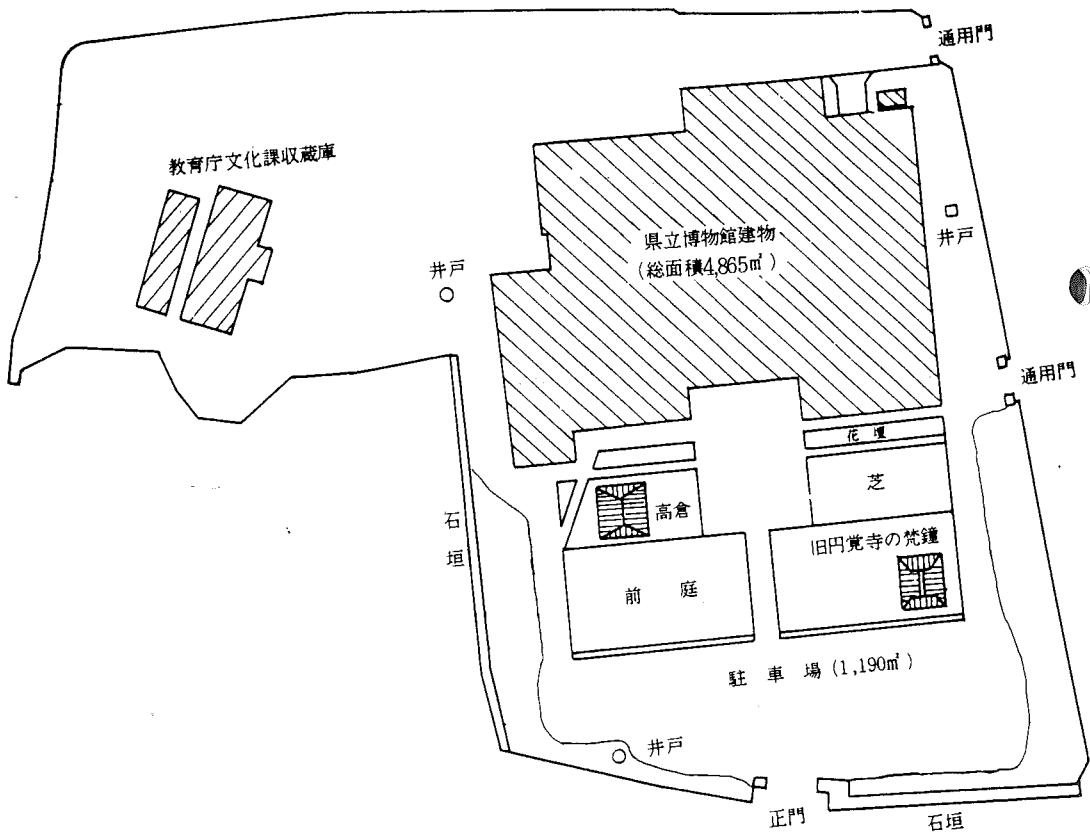
- 31 安谷屋正義作「仮象」1点を文化課より保管依頼される。
- (9月4日) 第98回博物館文化講座「久米島の史跡めぐり」出発、(5日まで)。澎湖県県長謝有温氏他4名来館。
- 7 金石文拓本、写真パネル展開催(26日まで)。
宜湾朝保の短冊5点野崎真昭氏より寄贈される。
フチュクル瓶など民俗資料10点浜崎美智子さんより寄贈される。
- 12 沖縄民俗研究会。
- 14 参議院議員大河原太一郎氏来館。
沖縄開発庁振興四課長荒賀泰太氏来館。
- 16 昆虫標本721種、1,920個体が琉大東清二教授より寄贈される。
- 19 拓本実技講習会。球陽研究会。
- 21 中国科学院成都生物研究所副所長赴 密氏来館。
- 24 鎌倉秀雄氏来館。
- (25) 第99回博物館文化講座「宮古上布の話」講師大城志津子氏。
- 29 熊本県立美術館大浜副館長と浜地氏打ち合わせのため来館。
- 10月3日 沖縄民俗研究会。
- 9 松本参議院議員来館。
- 15 坪井清足奈良国立文化財研究所長来館。小笠原参議院議員来館。
- (16) 第100回博物館文化講座100回記念講演「博物館の展示について」講師坪井清足氏。
- 22 清風学園職員丹波範夫氏外数人修学旅行下見のため来館。
- 24 熊本県立美術館高浜、浜地両氏来館。出品物入館。
- 28 熊本県、沖縄県交流展のため細川氏夫婦来県。
- 29 熊本県・沖縄県交流展の開会式・レセプション。熊本県立美術館長小山岑夫氏来館。
- 30 熊本県、沖縄県交流展開催(11月28日まで)。特別講演会「永青文庫と細川家」、講師細川護貞氏「考古学上からみた熊本」乙益重隆氏。
- 11月1日 三味線「盛島開鐘」が尚裕氏夫人より贈呈される。
- 2 前熊本県沖縄県人会長中村清和氏夫妻来館。
- 6 県立博物館名品展開催(於 読谷村立歴史民俗資料館、26日まで)。
- 8 陶磁器その他資料の寄贈が観宝堂吉戸氏よりあり。
- 13 特別文化講座「曾畠式文化の源流を韓国に訪ねて」講師慶大教授江坂輝彌氏。
- 15 永青文庫山岸氏来館。スイスのカーロー、サルバード氏来館。

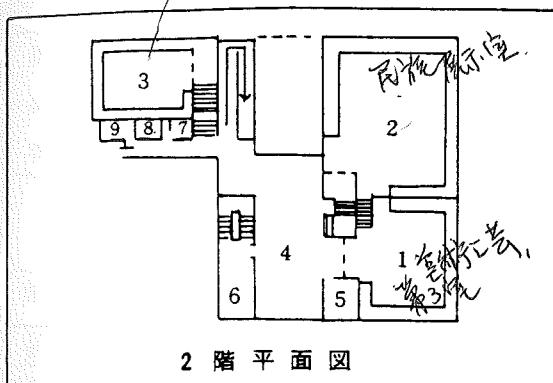
- 11月16日 国立歴史民族博物館坪井清文、岩井宏美両教授来館。
- 21 国立国会図書館長荒尾氏ら5名来館。
- 28 特別展「熊本県の歴史と文化」終了。博物館協議会。
- 29 かたづけ、燻蒸、展示替えのため休館（13日まで）。
- 12月 4日 燻蒸（5日まで）。
- 14 常設展オープン。九歴の亀井氏当館の青磁類調査のため来館。大阪清風学園2年生300人来館。
- 18 福岡中村学園女子高校生約280名来館。沖縄社会学会講演会。昆虫同好会。
- 22 瑞大菊山氏日本史ゼミのため30人を引率、来館。
- 26 沖縄民俗研究会。
- 1月 6日 西宮市大谷記念美術館川辺雅美氏外2名来館。法政大山本弘文教授来館。
- 16 沖縄民俗研究会。
- 20 郵政省郵務局管理課長福味徹氏来館。那覇市消防署首里支所による点検。
- 23 球陽研究会。
- 24 元興寺文化財研究所員3人来館（民具資料調査のため）。
- 25 近畿文化会一行来館。
- 28 九州、佐賀、長崎、大分、宮崎各県検事正来館。定例消防訓練。
- (29) 第101回博物館文化講座「考古学よりみた南島の葬制について」講師当真嗣一氏。福岡県、鹿児島県検事正来館。
- 30 紙弊の寄贈が翁長良明氏からあり。
- 2月 4日 大阪国税不服審判所長来館。東京国立博物館の矢部良明氏当館の中国陶磁調査のため来館。
- 9 沖縄博物館協会の研修会が本部町立中央公民館で行なわれる（10日まで）。
- 12 特別文化講座「港川人と日本人の起源」講師鈴木尚東大名誉教授。
- 18 国立歴史民族博物館考古部長岡田茂氏来館。
- 20 沖縄民俗研究会。
- 21 三木靖鹿児島短大教授来館。
- 22 山本弘文法政大教授来館。仲宗根本部町教育長、国場同町博物館書記、平良吉彦海洋博記念館学芸員来館。那覇地区特殊学級来館。
- 24 北九州市立自然史博物館副館長他1名来館。
- 26 第102回博物館文化講座「琉球の位階制度」講師宮里朝光氏。
- 3月 1日 群馬県立歴史博物館学芸第二課長原田恒弘氏、同学芸員田中宏之氏来館。
- 3 鹿児島県立博物館主査原田浩宜氏来館。笠利町歴史民俗資料館中山清美氏来館。

- 5 小林一仁文部省初等中等教育局教科書調査官来館。
- 7 第5展示室仮燻蒸。
- 10 前原高校生60名来館。
- 12 全国地方銀行長会一行来館。
- 15 三好敏明山口県教育研修所長他1名来館。
- 23 北海道庁財政課職員5人来館。
- (26) 第103回博物館文化講座「沖縄の食制について」講師金城須美子氏。
柳悦孝東京女子美大教授来館。
- 27 沖縄民俗研究会。
- 28 第5室動物剥制燻蒸。博物館協議会。
- 31 館長大城徳次郎退職。

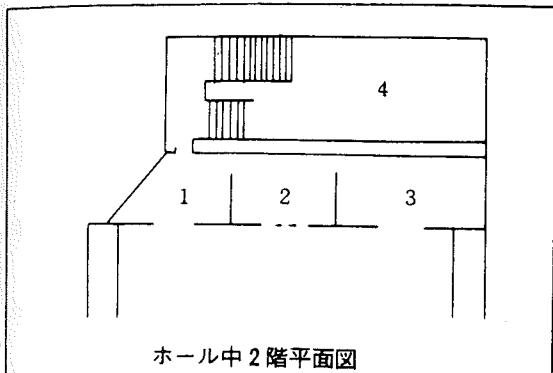
施設・設備

施設配置図

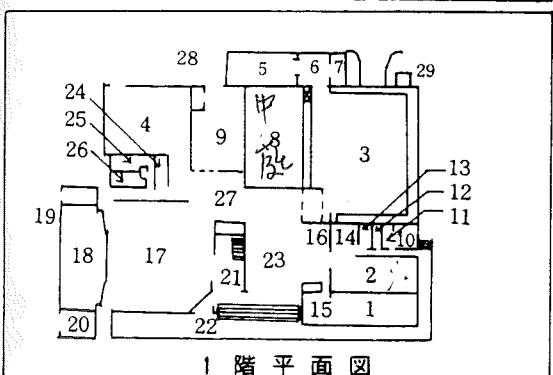




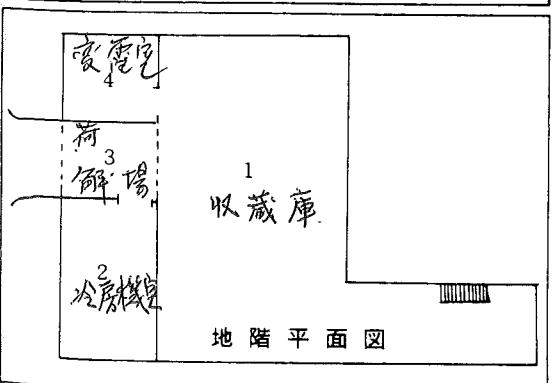
2階平面図



ホール中2階平面図



1階平面図



地階平面図

●概要

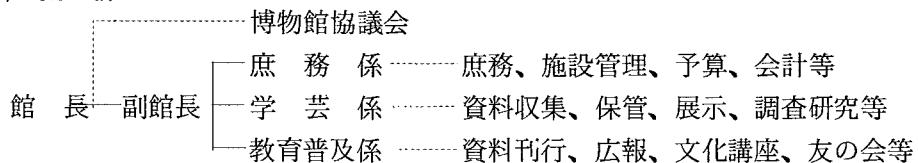
敷地面積	11,246m ²
建物面積(m ²)	2,893 2階 1,571 地階401 計 4,865
展示面積	1階 632 2階 870 計 1,502
ロビー面積	513
収蔵庫面積	507
駐車場面積	1,190
庭園面積	1,612
冷房機	(チラー) 圧縮機 9kw×4台×2機 冷却能力 150,000 k c a l / H × 2機 第1室 2.2kw 第2室 1.5kw 第3室 4.5kw 第5室 0.75kw
空調機	1階収蔵庫、1階ショーケース 2.2kw 2階ショーケース 1.5kw×2機 地下収蔵庫 2.2kw 事務室 2.2kw 館長室 2.3kw 講堂 5.5kw
変電室	電灯 1φ 3W 30KVA×1機 電灯・動力 3φ 4W 100KVA×1機 動力 3φ 3W 200KVA×1機 動力 3φ 3W 250KVA×1機 335kw
契約電力	講堂
講堂	客席数 1階 434席 2階 196席 計 630席

●室名と面積

2階 番号	室名	面積 m ²
1	(第3室) 美術工芸展示室	265
2	(第4室) 民俗展示室	436
3	(第2室) 陶磁器展示室	170
4	ロビー	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	調光室	17
11	映写室	19
12	音響効果室	25
ホール中2階		
1	事務室	115
2	資料室	96
3	(第1室) 総合展示室	462
4	(第5室) 特別展示室	470
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	漆器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	羽子襷収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(男)	7
13	化粧室(女)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	模型コーナー(首里城)	18
17	講堂(客席)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	主衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	売店	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5
地階 番号	室名	面積 m ²
1	収蔵庫	285
2	冷房機室	58
3	荷解場	28
4	電室	30

組 織 1983年5月1日現在

(1) 機 構



(2) 職員構成

職 員	氏 名	担 当 業 務	備 考
館 長	大城立裕	博物館業務の総理に関すること。	
副 館 長	宜保栄治郎	館長補佐、庶務、施設管理、学芸、教育普及との調整に関すること。	
庶務係長	幸地右雅	庶務、施設管理、予算、事業に関すること。	
主 事	村山佐代	庶務、歳入、事務に関すること。	
主 事	仲里富代	予算決算、会計事務に関すること。	
技 師	下地栄	施設管理に関すること。	
学芸係長	上江洲均	学芸業務の統轄、民俗、書跡、資料受入に関すること。	
主任学芸員	知念勇	考古、写真資料、展示業務、沖博協等に関すること。	
学芸員	上江洲敏夫	歴史資料ならびに図書受入、写真撮影等に関すること。	
教育普及係長		教育普及業務の統轄	
主任学芸員	大城逸朗	自然系地質、文化講座、友の会に関すること。	
学芸員	当山昌直	自然系、生物、移動博等に関すること。	
学芸員	津波古聰	絵画・陶磁器等に関すること。	
教育普及補助員	与那覇邦子	解説員（委託業務）	
受付	西平節子	受付一階ロビー監視業務に関する事（委託業務）	
監視	東美智子	第一展示室（委託業務）	
"	西平勝子	第三展示室（"）	
"	本部光子	第四展示室（"）	
"	照屋カツ	第五展示室（"）	
清掃業務	金城ヨシ	館内の清掃業務（"）	
宿直	玉城正篤	宿直業務（"）	

(3) 人事異動

館長	大城 徳次郎	勧奨退職	58. 4. 1 付
副館長	名嘉 正八郎	自治研修所へ	58. 4. 1 付
教育普及係長	宮城 篤正	浦添市へ	58. 4. 1 付

館長	大城 立裕	沖縄史料編集所長より	58. 4. 1 付
副館長	宜保 栄治郎	文化課々長補佐より	58. 4. 1 付

(4) 沖縄県立博物館協議会

委員名簿

学識経験者	野原朝秀	南風原町新川 38	89-4789	琉球大学教育学部教授
	外間政彰	那覇市松尾 2-2-6	63-1955	那覇市立図書館長
	安次富長昭 (会長)	那覇市石嶺 3-117-10	85-1653	琉球大学教育学部教授
	高宮曠衛 (副会長)	那覇市寒川 1-23	34-3222	沖縄国際大学文学部教授
学校教育関係者	宮城久一	那覇市松山 2-24 那覇中学校	34-5535	沖縄中学校長会長
	福地廣昭	那覇市久茂地 3-9-12	67-0161	沖縄県教職員組合副委員長
社会教育関係者	宮里 悅	那覇市大道 14-10	84-5333	沖縄婦人連合会会長
	照屋忠英	那覇市泉崎 1-2-14	66-2618	県議会文教厚生委員会委員長
	馬場俊光	那覇市久茂地 2-2-2	67-3111	沖縄タイムス社編集局長
	外間正四郎	那覇市泉崎 1-10-3	67-1131	琉球新報論説委員長

予 算

昭和 57 年度博物館費（決算）

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
(節) 報酬	168,200	0	168,200
(節) 貨金	1,415,680	1,571,600	2,987,280
(節) 報償費	498,500	507,000	1,005,500
(節) 旅費	963,116	3,316,540	4,279,656
(細節) 費用弁償	79,300	1,362,620	1,441,920
(〃) 普通旅費	883,816	1,953,920	2,837,736
(節) 需用費	26,136,037	7,569,282	33,705,319
(〃) 消耗品費	1,369,330	882,262	2,251,592
(〃) 燃料費	98,978	0	98,978
(〃) (食糧費)	86,120	814,940	901,060
(〃) 印刷製本費	2,713,635	5,872,080	8,585,715
(〃) 光熱水費	19,672,444	0	19,672,444
(〃) 修繕料	2,195,530	0	2,195,530
(〃) 医薬材料費	0	0	0
(節) 役務費	1,883,384	9,535,500	11,418,884
(〃) 通信運搬費	949,700	8,417,260	9,366,960
(〃) 手数料	933,684	0	933,684
(〃) 保険料	0	1,118,240	1,118,240
(節) 委託料	9,016,340	7,970,000	16,986,340
(〃) 使用料及び賃借料	121,800	1,322,370	1,444,170
(〃) 備購費	14,398,550	580,000	14,978,550
(〃) 負担金補助及交付金	71,500	0	71,500
(〃) 公課費	18,900	0	18,900
合計	54,692,007	32,372,292	87,064,299

昭和 57 年度歳入状況（決算）

科目名	内訳	常設展	特別展
博物館使用料		6,250,606	5,805,300
建物使用料		24,187	
財産収入		4,000	
小計		6,278,793	5,805,300
合計		12,084,093	

事業

(1) 常設展

展示室は5室あり、そのうち4室が常設展示室で、残り1室は特別（企画）展示室であったが、今年度からは特別室を自然展示室に切替えて、5月にオープンした。

1室（1階）は「歴史」（自然史、考古、歴史）で、常設展示全体の概論的内容になる。第2室（2階）は「美術工芸Ⅰ」（陶磁器・近代絵画）、第3室（2階）「美術工芸Ⅱ」（書跡・絵画・漆器・染織等）、第4室（2階）「民俗」、第5室が自然展示室となっている。

第1室は「歴史」室で地質時代から始まる。まず「琉球列島のおいたち」とし、中生代白亜紀・新生代第三紀中新世・新第三紀鮮新世・第四紀のはじめ頃、第四紀中頃の古地理図をパネルで示し、それに対応して、イリオモテヤマネコの骨格標本、ハブ類、リュウキュウイノシシなどの生物標本を展示了。

それに続く考古は、山下町第I洞穴遺出土の骨製品に始まり、先史時代の編年表に合せて、荻堂式、市来式、大山式等の土器、骨、貝製品等貝塚時代前～後期の出土遺物配列し、それに続いて、宮古、八重山の先史、原史時代の土器、石器、陶磁を展示し、引続き、グスク時代の出土遺物を展示了。

歴史時代は海外交易に関する、進貢船の図・朝鮮鐘・陶磁器等を展示続いて、「琉球王国の形成」「薩摩入後の琉球王国」「文芸の花ひらく」「農民層の分化」「異国船のおとずれ」「琉球処分」でおもろさうし・中山世鑑・三味線等を展示了。

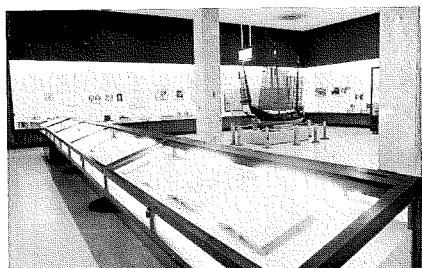
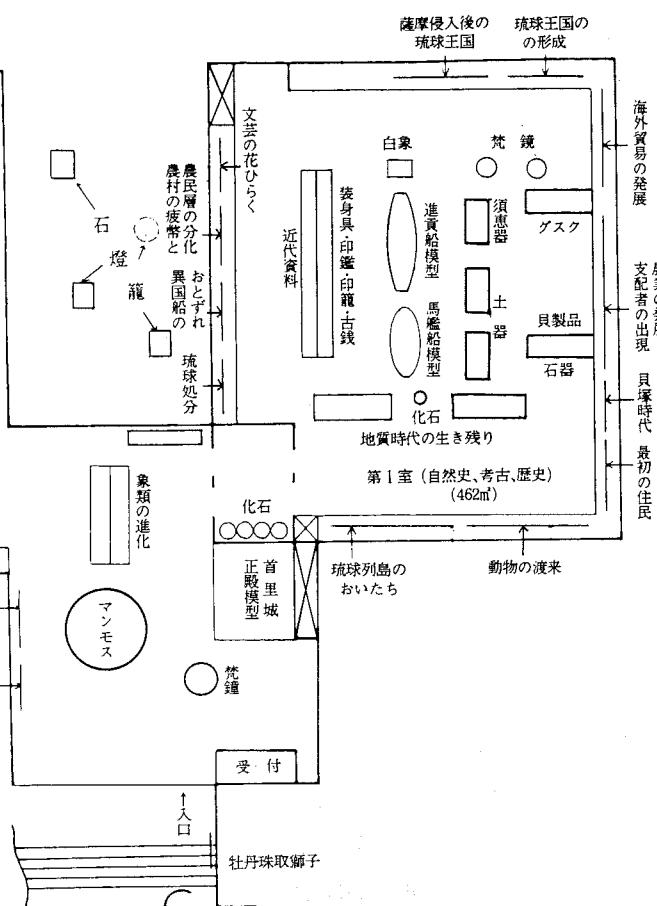
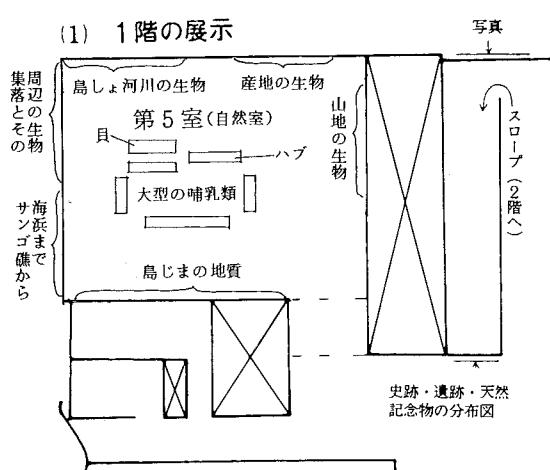
第二室は、沖縄の陶器（古我知焼・湧田焼・喜名焼・壺屋焼）と近代絵画（名渡山愛順他）を展示。第三室は、琉球漆器・織物・紅型・装身具等を展示了。

第四室は、琉球列島の民具を農業・漁撈・衣・食・住に分けて展示し、今年から芸能関係の資料が新たに追加展示された。また2階ロビーには、砂糖車・位牌と厨子甕とともに台湾とインドネシアの民俗資料も展示了。

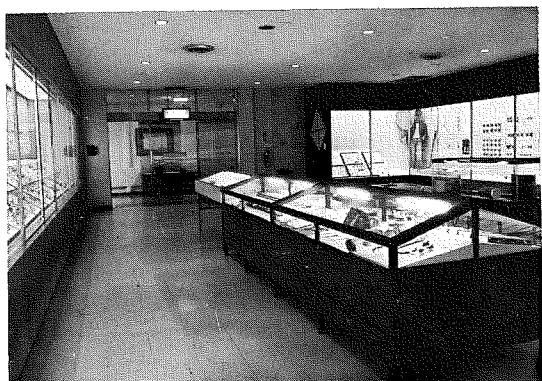
第五室は今年度から新たに開設された自然室である。1. 島じまの地質（沖縄県の地質図・岩石標本・鉱物標本・大型化石・港川人）、2. サンゴ礁から海浜まで（さんご礁の生物Ⅰ・Ⅱ、磯の生物・砂浜の生物・マングローブの生物）、3. 集落とその周辺の生物（人家付近の植物耕作の植物・道ばたの植物・山すその植物・集落とその周辺の植物・帰化植物）、4. 島しょ河川の生物（自然度の高い河川の生物、汚染された河川と生物）、5. 低地の生物（低地の植物・低地の動物・鐘乳洞の中の動物）、6. 山地の生物（山地の植物、渓谷の生物・岩山の生物・山地の動物）、7. その他大形の貝・イモ貝・タカラ貝の仲間・ヘビ・トカゲの仲間・大形の哺乳類（ケラマジカ・リュウキュウイノシシ等）。

展示略図（常設展示）

(1) 1階の展示



第1室

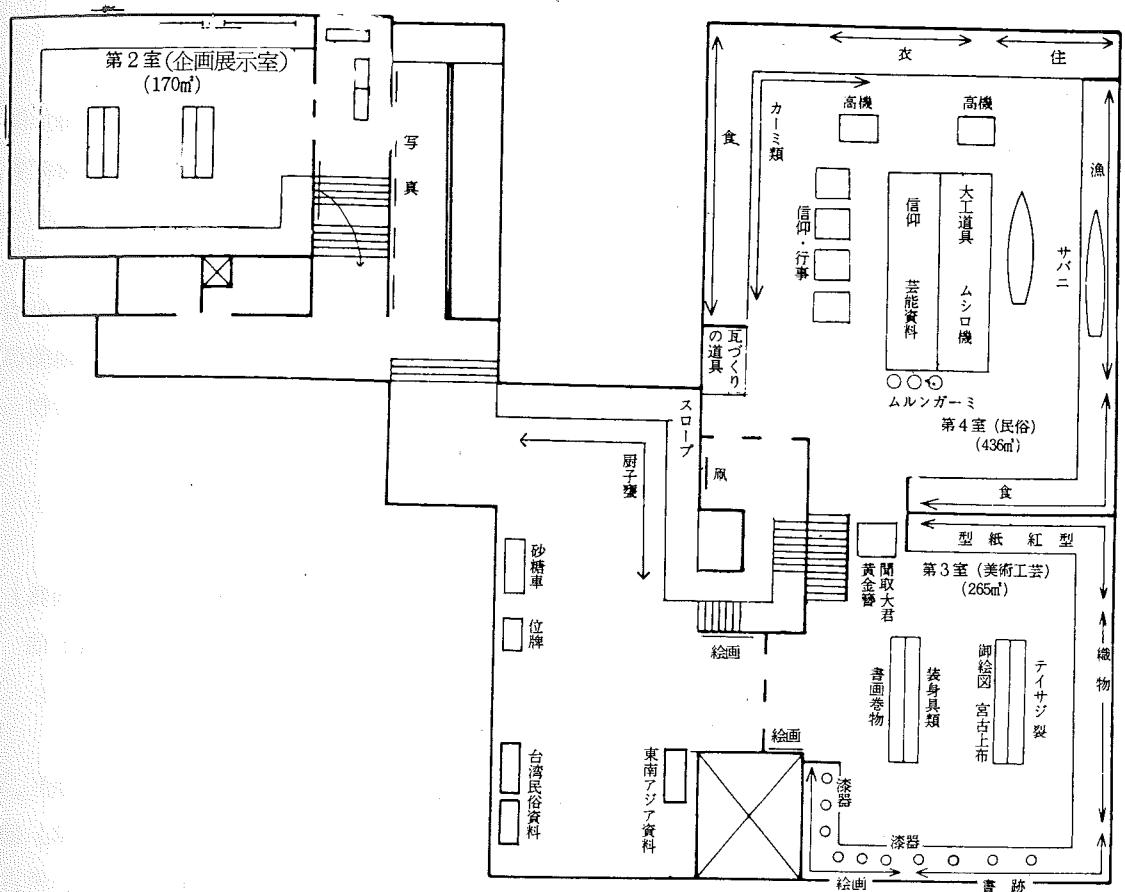


第2室(企画展示室)



第3室

(2) 2階の展示 (常設展示)



第 4 室



第 5 室

(2) 企画展

イ 新収蔵品展

会期：昭和57年5月11日（火）～7月4日（日） 会場：企画展示室

1 趣旨

前年度に博物館で購入または収集し、寄贈を受けた資料を一般公開する目的で毎年開催している企画展である。資料の紹介をし、広く役立てることを目的とすると同時に資料を提供した人たちへのお礼の意味をこめて催すものである。

2 展示内容

主な展示品として、南米産大蛇アナコンダの皮、マンモスの体毛、中国ウイグル自治区の楽器、インドネシアの民族資料のほかハワイのジョージH・ケアー博士の沖縄関係資料などがあげられる。貝類標本、玉川王子書、謝花雲石書（14点）、宮古上布着物（35点）、琉球漆器（19点）やキクザトアオヘビも貴重な資料として展示した。

3 展示品目録

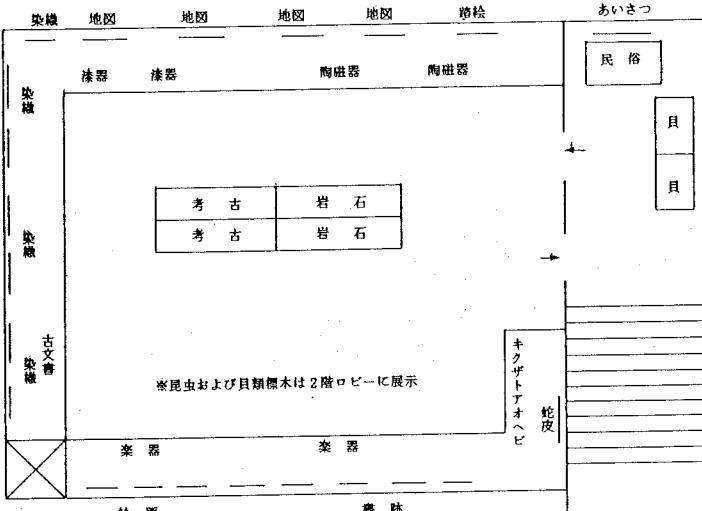
(1) 購入の部

絵画「魚」他（4点）、書跡「中山尚慎書軸物」他（18点）、陶磁器「線彫抱瓶」（1点）、染織「宮古上布着物35点」他（45点）、漆器「黒漆鳳凰草花螺鈿盆」他（21点）、自然「雲母花崗岩」（206点のうち10点）。

(2) 寄贈の部

絵画「夕照」（1点）、書跡「拓本」（1点）、陶磁器「喜名焼甕」他（8点）、染織「紅型下絵14点」他（16点）、漆器「黒漆角膳」他（2点）、歴史「東游草」他（44点）、芸能「二線（胡弓）」他（4点）、民俗「キセル吸口」他（63点）、考古「染付碗」他（306点）、自然「鮫の歯」他（2,312点のうち約100点）

4 展示配置図



新収蔵品展示略図

□ 沖縄の昆虫

会期：昭和57年7月27日（火）～8月29日（日） 会場：企画展示室

1 趣 旨

本県は、他府県ではみることができない固有の昆虫相を有しており、27目約3,400種の昆虫が分布している。本県の昆虫相は、①古い種類、または固有種が多い。②南方系の昆虫が半数以上ある。③地理的な変異が多い。④南方からの飛来昆虫が多いなどの諸特徴がある。このような豊かな沖縄の昆虫を紹介するのが展示の目的である。

2 展示内容

A、分類：沖縄産の昆虫25目、約1,300種 6,000頭を分類群に従って展示

B、生態：a、すみ場所（人家付近・耕作地・山地）b、生活史（完全変態・不完全変態）c、分布（北限種・固有種・迷蝶）d、変異（性変異・季節変異・地理変異・個体変異）

C、人とのかかわり：a、むしと子どもの遊び、b、衛生害虫、c、農業害虫 d、昆虫の利用

D、学習：a、観察（生体観察）b、採集（採集の道具・方法）c、飼育（飼育方法）d、標本（標本のつくり方・用具・保存）

3 映写会

2階ロビー：毎日1本6回ビデオ放映（休館日を除く）

(1)トンボの愛はハート型、(2)沖縄の冬ノ鳴く虫天国、(3)巨大女王とシロアリ城、(4)カムシの毒ガス作戦、(5)クサゼミ身長15mm、(6)黄金のさなぎノ沖縄珍蝶図鑑、(7)酒だ忍法コノハチョウ、(8)沖縄のアリ超能力

4 文化講座

「昆虫の野外観察」講師 長嶺邦雄 他沖縄昆虫同好会会員

昭和57年7月31日（土）那覇市末吉公園（教育普及活動の項を参照）

5 そ の 他

印刷物：パンフレット「沖縄の昆虫」B5版14ページ1,000部、案内ハガキ1,000部

入館者：総入館者数22,782人（30日間）、一日平均入館者759人

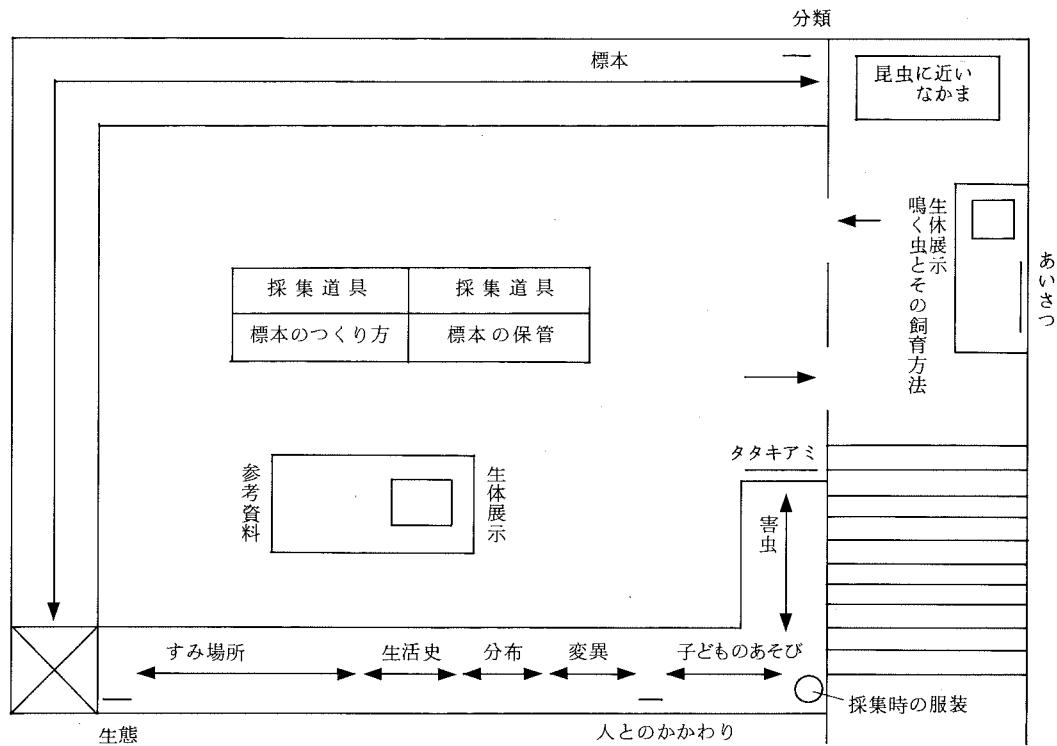
協 力：沖縄昆虫同好会

6 備 考

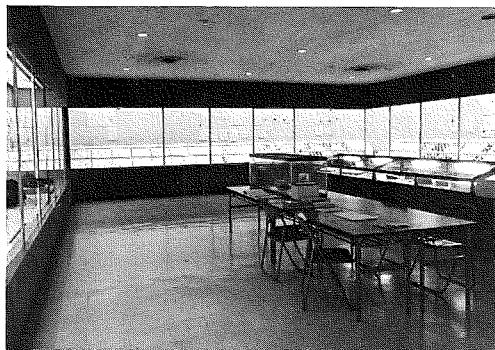
入館者は、小学生や親子づれが目立ったが、中・高校生はほとんどみられなかった。今回の展示を催すにあたって惜しみない協力をいただいた沖縄昆虫同好会に感謝する。

7 展示品目録

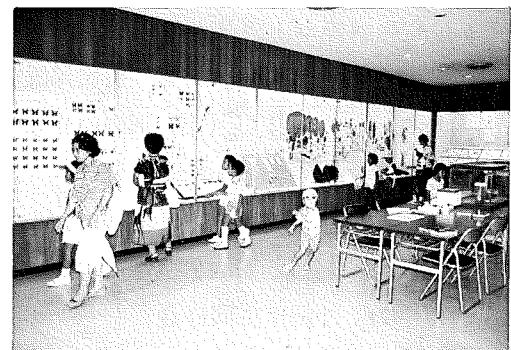
省略（展示内容、展示配置図を参照）



「沖縄の昆虫」展示略図



展示場内



観覧風景

八 金石文拓本・写真パネル展

会期：昭和57年9月7日（火）～9月26日（日） 会場：企画展示室

1 趣旨

本県の歴史の一端を語る金石文の拓本および写真パネルを一堂に集め、広く県民の文化に対する意識の高揚と普及をはかり、あわせて拓本を探ることへのいざないと目的とする。

2 展示内容

- (1) 拓本11点、写真パネル27点
- (2) 拓本道具一式、タンポの作り方工程、拓本の採り方工程写真

3 講習会

拓本教室「博物館で拓本を探ってみませんか」

講師 又吉 真三（沖縄県文化財修理技術者協会会長）

崎間 麗進（同上理事）

上江洲敏夫（県立博物館学芸員）

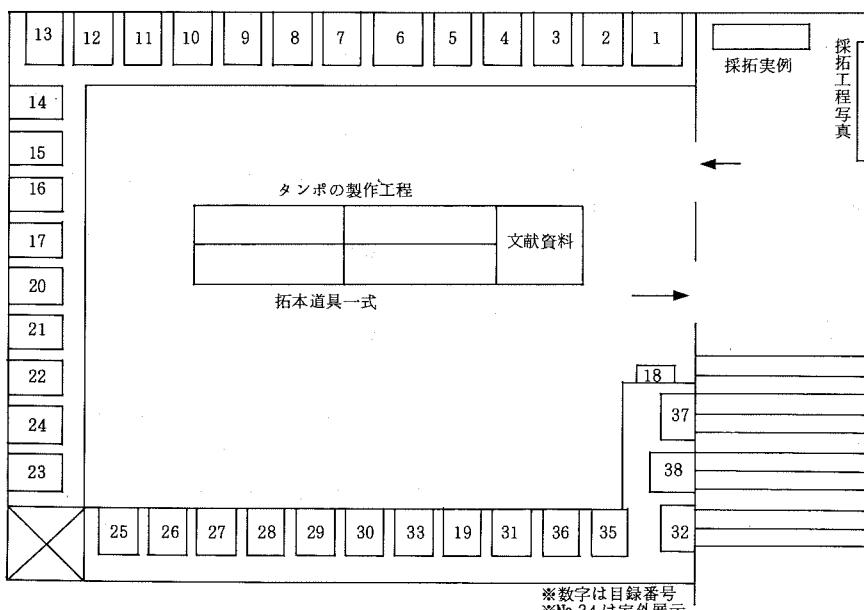
日時 昭和57年9月19日（日）

場所 県立博物館会議室

共催 沖縄県文化財修理技術者協会



展示場



金石文拓本・写真パネル展示略図

	名称(碑名・鐘銘名)	撰文年	拓本・ パネル別	備考
1	安国山樹華木之記碑	1427年(尚巴志6)	拓本	現存
2	万歳嶺記(上ミヤキジナハノ碑文)	1497年(尚真20)	パネル	滅失
3	官松嶺記(下ミヤキジナハノ碑文)	1497年(")	パネル	残欠
4	円覚禪寺記	1497年(")	パネル	残欠
5	国王頌徳碑(荒神堂之北之碑文)	1498年(尚真21)	パネル	残欠
6	尚真王觀察(サシカヘシ松尾ノ碑文)	1501年(尚真24)	拓本	滅失
7	たまおとんのひのもん(玉陵碑)	1501年(")	拓本	現存
8	国王頌徳碑(石門之東之碑文)	1522年(尚真45)	拓本	滅失
9	真玉湊碑文(石門之西之ひのもん)	1522年(")	拓本	残欠
10	崇元寺之前之碑文(下馬碑)漢文	1527年(尚清1)	パネル	現存(東側)
11	同 上 仮名文	"	パネル	現存
12	浦添城の前の碑文(表)	1597年(尚寧9)	パネル	残欠
13	極楽山之碑文	1620年(尚寧32)	拓本	残欠
14	勢理客橋碑(表)	1691年(尚貞23)	パネル	残欠
15	中山孔子廟碑記(琉球国新建至聖廟碑記)(表)	1716年(尚敬4)	パネル	残欠
16	同 上 (裏)	"	パネル	残欠
17	比謝橋碑文	1717年(尚敬5)	パネル	現存
18	琉球新建儒学碑記	1719年(尚敬7)	パネル	残欠
19	中山第一	1725年(尚敬13)	拓本	滅失
20	西森碑記(森川碑)	1732年(尚敬13)	拓本	現存
21	報得橋記	1732年(")	パネル	現存
22	板良敷村島袋搾親雲上墓所約定碑	1737年(尚敬25)	パネル	現存
23	登川碑、登川分村碑	1739年(尚敬27)	パネル	現存
24	護佐丸祖先墓碑	1740年(尚敬28)	パネル	現存
25	新修美栄橋碑記(表)	1744年(尚敬32)	パネル	現存
26	山北今帰仁城監守來歴碑記(表)	1749年(尚敬37)	パネル	現存
27	大山御嶽碑文	1761年(尚穆10)	パネル	現存
28	与那覇頭豊見親逗留旧跡(表)	1767年(尚穆16)	パネル	現存
29	琉球国新建国学碑文(表)	1801年(尚溫7)	パネル	滅失
30	尚豊王御代	1830年(尚灝27)	拓本	現存
31	源遠流長	1838年(尚育4)	拓本	滅失
32	(飛泉)瀬玉	1838年(")	パネル	滅失
33	夏氏大宗碑	1853年(尚泰6)	パネル	現存
34	湧田井碑	1865年(尚泰18)	パネル	滅失
35	独逸皇帝感謝の碑(表)	1865年(")	パネル	現存
36	靈脈流芬	1866年(尚泰19)	拓本	残欠(「靈」)
37	朝鮮鐘鐘銘	956年	パネル	残欠(龍頭)
38	旧首里城正殿鐘(万国津梁鐘)鐘銘	1458年(尚泰久5)	パネル	現存

(3) 特別展

『熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化—』

会期：昭和57年10月30日～11月28日 会場：沖縄県立博物館

熊本県と沖縄県は、第2次大戦中沖縄県民が疎開地の熊本において親身の世話を受け以来親交が深い。両県は、沖縄の祖国復帰を契機に、昭和47年度から「熊本・沖縄県連絡協議会」を持ち、中学生の「都市交歓会」あるいは、「少年の船」の相互派遣等人的交流を深め、産業・文化事業の振興と提携を行ってきた。

そこで、これまでの交流を踏まえて両県は、昭和56年度の第10回連絡協議会で、自然・考古・歴史・古美術品等の資料を展示公開する「熊本県・沖縄県交流展」を交互に開催することになった。

最初に提案者である沖縄県立博物館において、「熊本県の歴史と文化展」を催すことになり、昭和58年度は、熊本県立美術館において、沖縄県の資料を展示することになった。その目的は、それぞれの風土や歴史の中から生れ育った文化を認識し、さらに両県の新しい地域文化の創造に寄与することにある。しかもこの「交流展」は、九州のみならず全国的にもユニークな企画として注目をあつめ、その成果が期待されている。

□展示概要

「熊本県の歴史と文化」は熊本県の自然・考古・歴史・美術に渉る総合的なものであるため、熊本県側の対応は、県立美術館・市立博物館・教育庁文化課等関係各機関の全面的な協力によってなされ充実した内容となった。

展覧会の構成を三つに分け、I、熊本県の自然、II、熊本の考古資料、III、熊本の歴史と美術を三本の柱とした。

第1室を「歴史展示室」とし、自然、考古、歴史が展示された。自然のコーナーは性質上写真パネルを中心に阿蘇山をはじめとする熊本県の豊かな自然が紹介された。実物資料としては阿蘇火山から生成された各種の岩石と県内に生息するタヌキ、ヤマネ、イヌワシ、ツル等の剥製標本やオオサンショウウオ等の天然記念物、有明海海底から発見された東洋象復元模型等が展示された。

考古コーナーは、熊本県教育庁文化課が中心になって、市町村教育委員会等の協力があって、この拾数年間に発掘調査された膨大な考古資料の中から選りすぐった、旧石、縄文、弥生・古墳・奈良時代以降の各時代約600点が展示された。

旧石器時代は阿蘇郡下城遺跡出土の打製石器など60点余が展示された。縄文時代は早期の押型文土器をはじめ、前期の曾畠式土器、中期の阿高式土器、後期の三万田式土器、晩期の夜臼式などを展示。古墳時代は前期から後期にかけては塙原古墳出土の土師器・

須恵器をはじめ、各古墳出土の副葬品である埴輪、装身具、鉄器、向野田古墳出土の重要な文化財である。鏡・車輪石等も展示された。

奈良から平安時代は土師器・瓦・経筒・土製品・墨書き土器等・鎌倉時代以降では中国陶磁と浜館出土の中国明代の三彩や緑釉の鳥形水注や瓶などが展示された。

歴史コーナーは、平安から鎌倉・室町にかけて活躍した菊池・阿蘇・相良氏などの古文書、中世の文化を象徴する仏教美術、対外交流によって受容された文物などを展示し、熊本県の歴史と文化を跡づけた。康平寺の三軀の木彫仏・願成寺両界曼茶羅、相良長頼、竹崎季長等の武士と寒巖寺尹・大智等禪僧の文書や肖像画。近世は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、加藤清正等の書状や肖像画を展示し、人気を集めた。

第2室は「大名のくらし」と銘打ち旧肥後藩主細川家に伝来する武具、甲冑、刀剣、茶器、能楽など武土により生みだされた工芸美、近世大名のくらしの中で風流をきわめた茶の湯と能楽である。特に豊後国行平・生駒光忠・正宗等の刀や時雨螺鈿鞍などの4点の国宝を含む重要文化財数点等の熊本という枠を越えた質の高い作品が展示され人気を集めめた。

第三室は、「肥後の美術工芸」とし、帝鑑図(狩野派)の屏風をはじめ、八代焼、小代焼・綱田焼などの焼物、黒地菊唐草文蒔絵櫛台等の化粧箱や細川家に伝来する琉球漆器が展示された。

今回の展示物の中で最大の大きさをほこる女乗物を一階ロビー正面に一品展示し注目を集めた。また2階ロビーは「疎開コーナー」とし、沖縄県民が熊本県での疎開中とその後の交歓を示めす写真、手紙、新聞資料、生活用品の一部などが展示され話題を集めめた。

この交流展には、前述した各公共機関はもとより永青文庫・慶應義塾大学をはじめ熊本県内の各文化財所有者の誠に無私な協がなければ不可能であった。正に熊本県あげての協力体制があった。これに答えて、当館では今年熊本県で行なわれる「沖縄の美」展へ向けて、全力をあげて取組んでいる。

この展示に合せて、細川護貞(細川家17代当主・永青文庫顧問)「永青文庫と細川家」と乙益重隆(国学院大学教授)「考古学上からみた熊本」の特別講演会があり好評であった。

入館者数1日平均、約800人で総計17,000人であった。

□主な出品物

<自然>

阿蘇の岩石、阿蘇の蝶、阿蘇の植物、阿蘇に飛来したツル、生きた化石オオサンショウウオ、

九州山地の動物、有明海に住んでいた象（下顎化石）、肥後の六名花、熊本の天然記念物。

<考古>

下城遺跡、曾畠貝塚、三万田遺跡、諏訪原遺跡、下山神遺跡、塚原古墳群、横山古墳、国越古墳、向野田古墳、浜館跡。

<歴史、美術工芸品>

絵画：正面達磨図（宮本武蔵）、帝鑑図（狩野派）、竹林七賢図（雲谷等顔）。

書蹟：信長、光秀、秀吉、家康、細川藤孝、玉（ガラシャ夫人）の書状。

彫刻：木造地蔵菩薩立像

金工：（重美）桜九曜紋透、（重文）桜破扇文象嵌潭

刀剣：（国宝）短刀・正宗、（国宝）大刀・行平、（国宝）刀生駒光忠

大名道具：黒地秋草模様腰巻

茶道具：大名物唐物茶入「利休尻張」

俊成・定家一紙両筆（藤原俊成・定家）七徳通戒掲（一休宗純）

能面・能装束：般若、翁

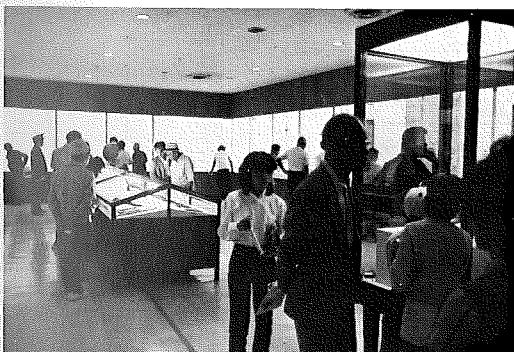
陶磁器：八代焼・小代焼



開会式・レセプション



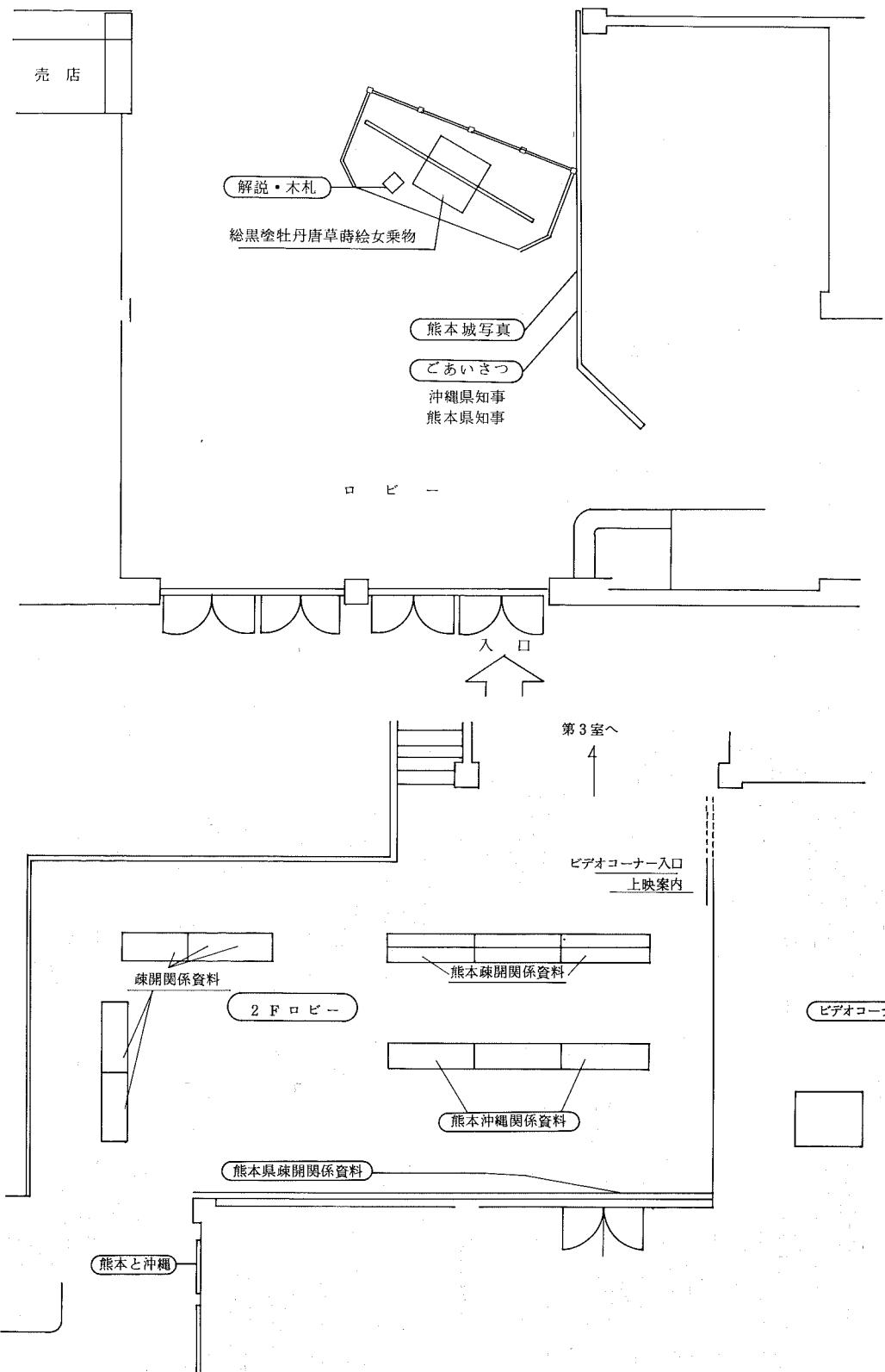
第1室「歴史展示室」

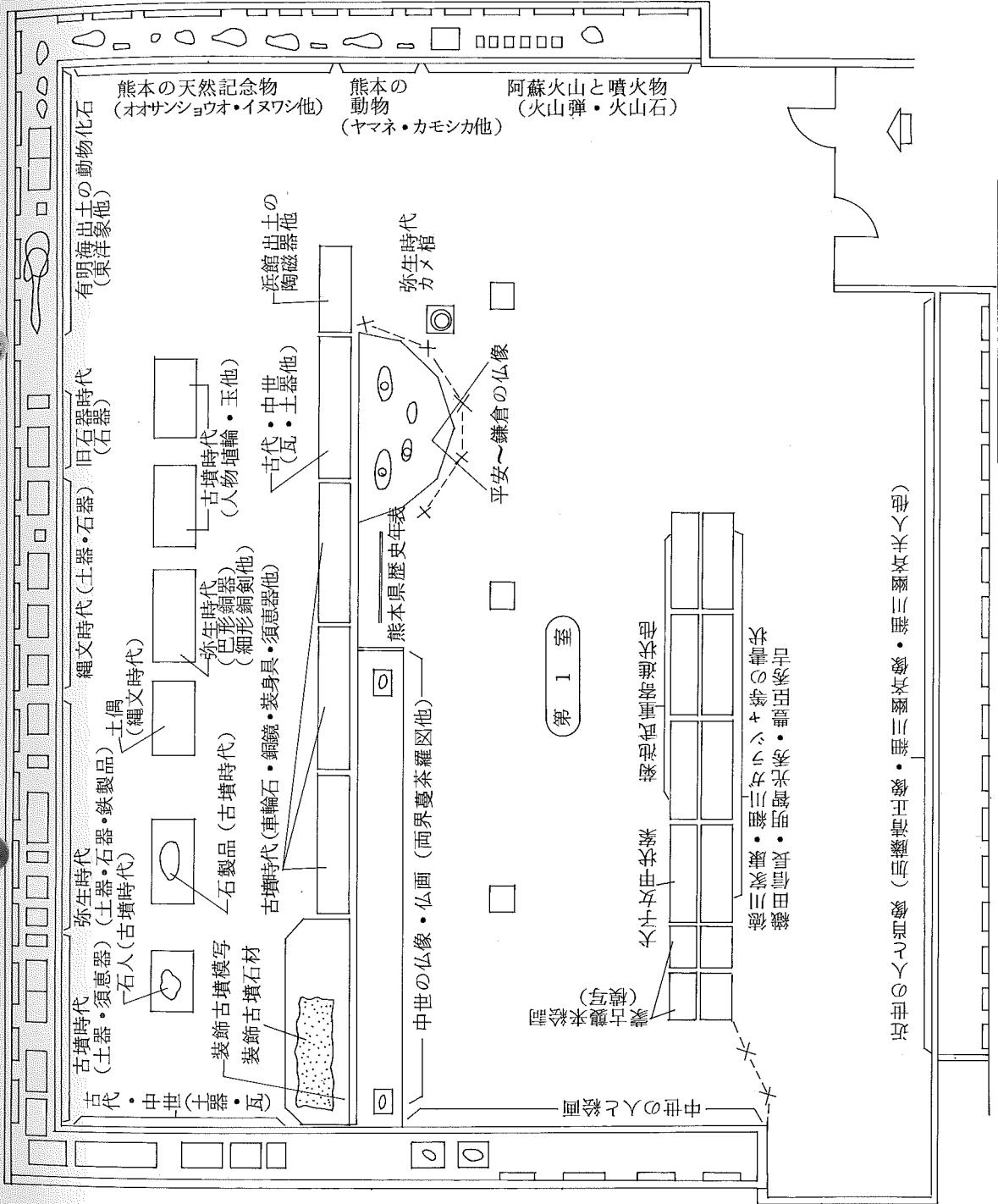


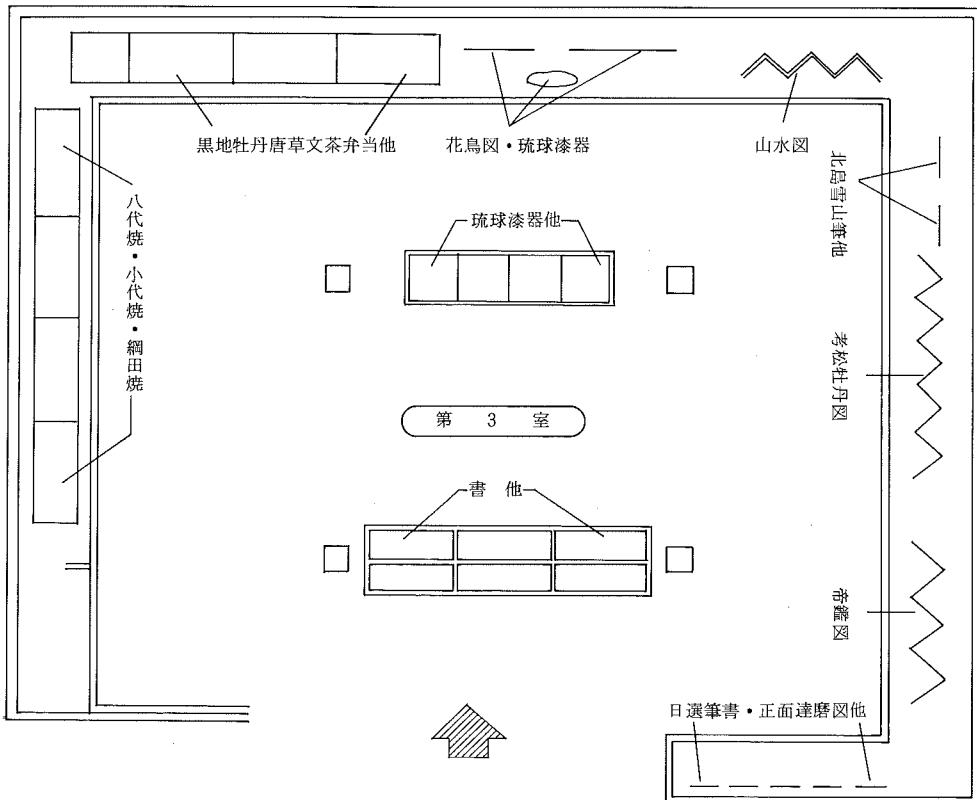
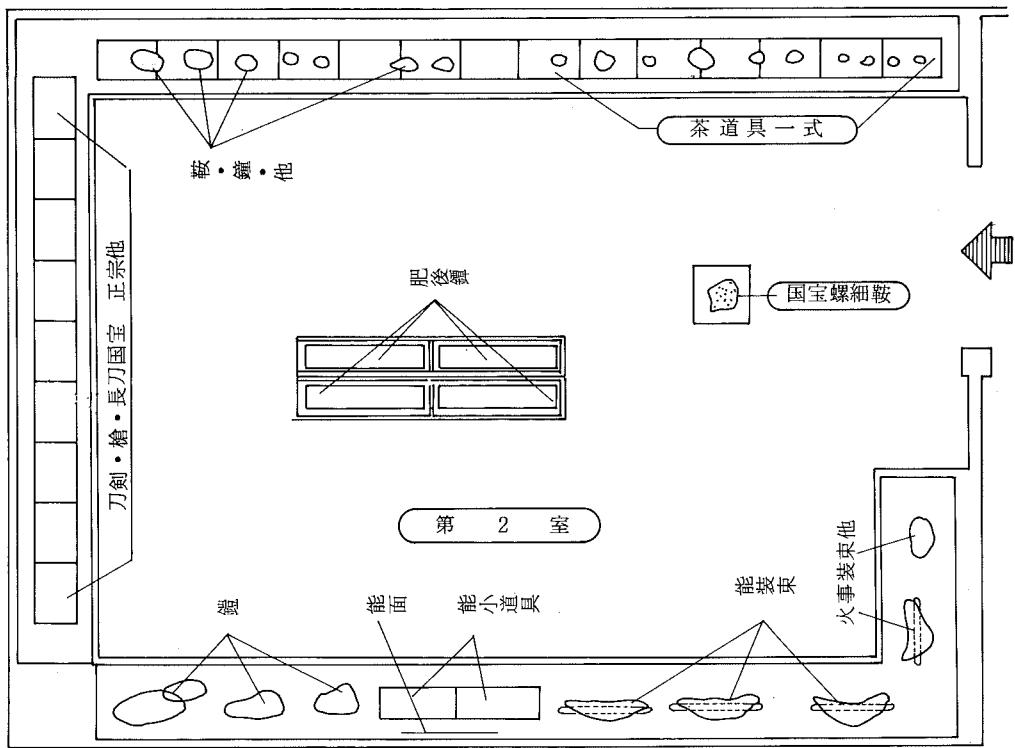
第2室「大名のくらし」



2階ロビー「疎開コーナー」







(4) 移動博物館

◎第5回移動博物館

会期：昭和57年5月22日（土）～23日（日）

会場：伊江村農村環境改善センター

主催：当館、伊江村教育委員会

◎第6回移動博物館

会期：昭和57年5月28日（金）～30日（日）

会場：本部町立博物館

主催：当館、本部町、本部町教育委員会

1. 趣旨

当館では、文化の広域普及をはかる目的で、博物館の活動を離島、遠隔地でも行えるようとするため、昭和54年度から「移動博物館」を実施してきた。今回は第5回を伊江村、第6回を本部町で開催した。

2. 展示

- (1) 自然史：恐竜をはじめ古生物の化石7点、沖縄群島産の両生爬虫類37種の標本と写真パネル
- (2) 考古：土器・石斧・グスク出土品など15点以上
- (3) 美術工芸：絵画・陶磁器・書跡・染物・織物・漆器などおよそ30点
- (4) 戦前の沖縄写真パネル：およそ60点

3. 文化講座

- (1) 『琉球列島のおいたちと伊江島』 講師 大城逸朗（当館主任学芸員）<於：伊江村>
- (2) 『考古学上からみた本部』 講師 知念勇（当館主任学芸員）<於：本部町>
- (3) 『沖縄の薬草』 講師 多和田真淳（那覇市史編集委員）<於：伊江村・本部町>

4. 映写会およびビデオ放映

- (1) 戦前の沖縄：『琉球の風物』、『琉球の民芸』
- (2) 沖縄の自然：「生きものバンザイシリーズ：コノハチョウ、ノグチゲラ、イボイモリなど」

5. 入場者

- (1) 伊江村（2日間）：総入場者1,608名（大人367名・児童生徒1,241名）
- (2) 本部町（3日間）：総入場者3,785名（大人1,085名・児童生徒2,700名）

6. 展示品目録

<自然史> プロトケラトプス（全身骨格）、プロバクトロサウルス（全身骨格）、タ

ルボサウルスの頭骨、タルボサウルスの指趾骨、恐竜の卵の化石、マンモスの大臼歯、世界最古の化石“コレニア”、イボイモリ、シリケンイモリ、ハロウエルアマガエル、リュウキュウアカガエル、ウシガエル、ヌマガエル、ハナサキガエル、ナミエガエル、イシカラガエル、ホルストガエル、ニホンカジカガエル、シロアゴガエル、オキナワアオガエル、ニホンヤモリ、タシロヤモリ、オガサワラヤモリ、オシナダケヤモリ、クロイワトカゲモドキ、マダラトカゲモドキ、キノボリトカゲ、オキナワトカゲ、バーバートカゲ、ヘリグロヒメトカゲ、アオカナヘビ、メクラヘビ、アマミタカチホヘビ、ヒメヘビ、リュウキュウアオヘビ、キクザトアオヘビ、アカマタ、ガラスヒバア、ハイ、ヒメハブ、ハブ、リュウキュウヤマガメ

<考古> 大山式土器、荻堂式土器2点、カヤウチバンタ式土器2点、石斧3点、石皿・敲石2点、磨石2点、御物グスク出土の中国陶磁片

<絵画> 「花鳥図」長嶺宗恭（華国）筆、「首里那覇鳥瞰図」筆者不詳、「牡丹の図」筆者不詳

<染織> 紅型着物 紅型風呂敷、手縞織着物、読谷山花織ティサージ、宮古上布絣着物

<漆器> 朱漆山水人物堆錦東道盆、朱漆山水人物箔絵湯庫、黒漆ぶどうリス螺鈿食籠

<陶磁器> 線彫梅竹文抱瓶、黒釉玉字入嘉瓶、三島手竹筒型花生、赤絵対瓶、焼締獅子置物、飴釉流油壺、赤絵草花文壺、牡丹・獅子貼付文壺、赤絵牡丹文碗、飴釉香炉、線彫梅・竹文鶴首瓶、薩摩燒雲助、山水文急須、古伊万里網目文徳利

<書跡> 梁文弼書、鄭嘉訓書

<聯> 趙文楷筆、周煌筆、林鴻年筆、季鼎元筆

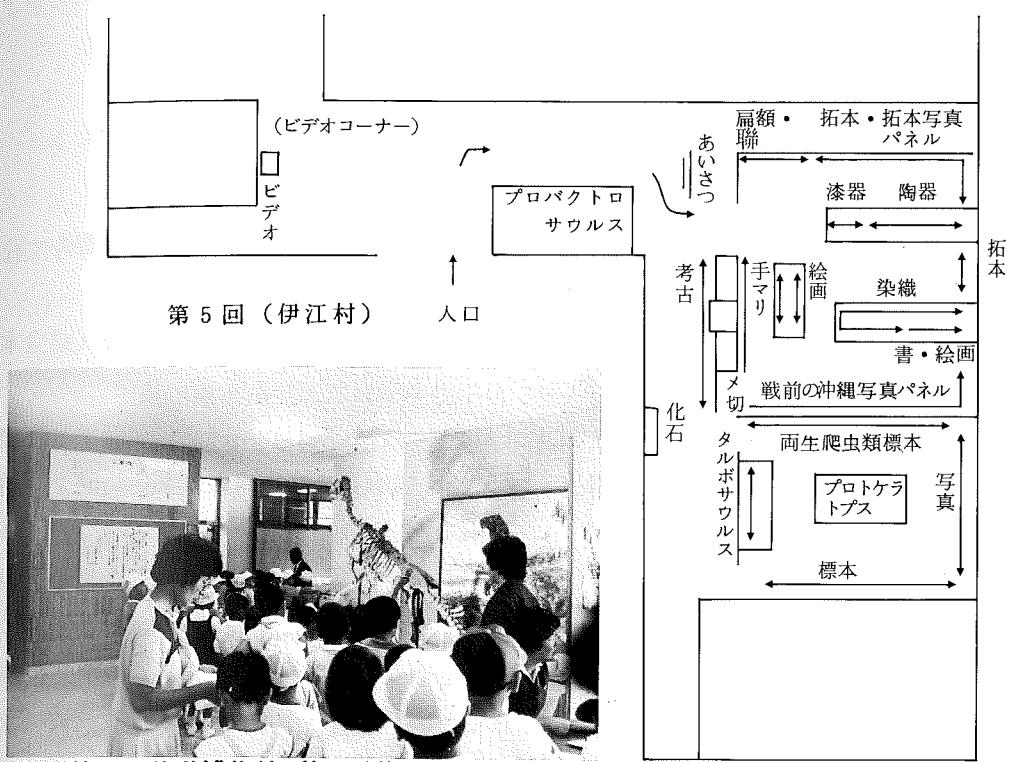
<扁額> 「海山一覽」林鴻年筆、「善淵堂」王文治筆

<拓本写真パネル> 「善行家風」、今帰仁池城墓碑文、山北今帰仁城監守来歴碑記（表・裏）、下馬碑（表・裏）

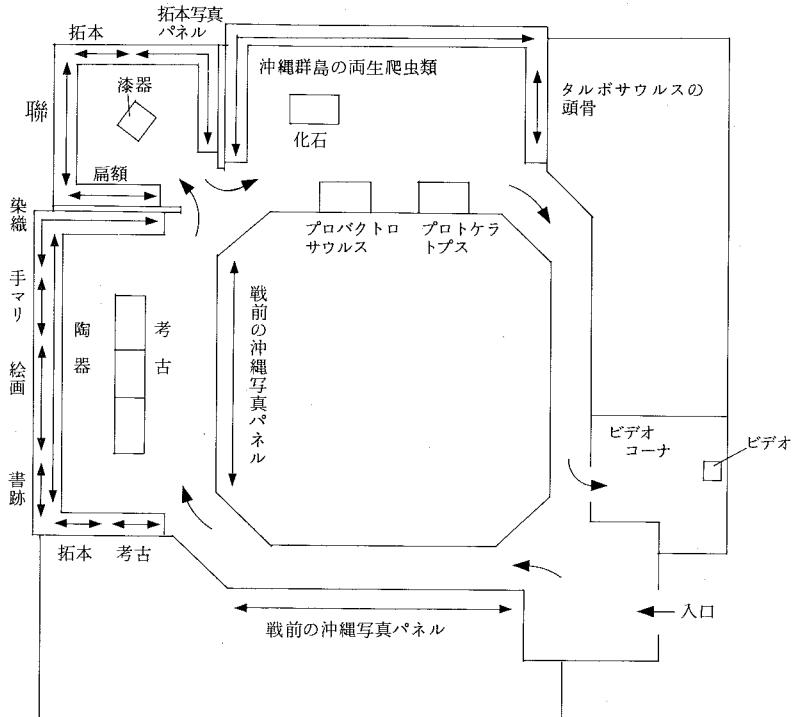
<拓本軸物> 「源遠流長」林鴻年筆、「中山第一」徐藻光筆、真珠湊碑、国王頌徳碑

<民俗> 手まり5点

<戦前の沖縄（写真パネル）> 首里城守礼門、首里城歓会門、園比屋式御嶽石門、円覚寺仏殿、弁ヶ嶽大嶽石造拝殿、首里城正殿、首里城白銀門、首里那覇全図、玉陵、識名園、那覇市の一部、名護港、名護、運天港、源河山の深谷、名護の墓、大井川の峠江、名護の大ガジュマル、砂糖の製造、与那原全景、屋部川とサキシマハマバウ、崇元寺、山原の田家、渡久地港、中城城跡、本部渡久地、渡久地晚景、競馬、闘牛、首里風景、市場、辻原の亀甲墓、農家、サーファー、葬列、カーミ市、今帰仁小学校の生徒たち、伊江島のウマ



第5回移動博物館（伊江村）



第6回（本部町）

(5) 教育普及

1 博物館文化講座（昭和57年4月～昭和58年3月）

実施：原則として毎月第四土曜日

時間：午後2：30～4：30

場所：博物館講堂

- <1> 第94回 4月17日（土）「沖縄の民俗芸能」 講師：宣保榮次郎（教育庁文化課課長補佐） 参加人員：70名
- <2> 第95回 6月26日（土）「沖縄の野鳥をたずねて」 講師：友利哲夫（県立本部高校教諭） 参加人員：35名
- <3> 第96回<館外> 7月31日（土）「昆虫の野外観察」 講師：長嶺邦雄（那覇市立松島中学校教諭） 参加人員：50名 場所：那覇市末吉公園 時間：午前10時～12時
- <4> 第97回<館外> 8月8日（日）、15日（日）「陶芸教室」 講師：宮城勝臣（陶芸家） 参加人員：103名
- <5> 第98回<館外> 9月4日（土）～5日（日）「久米島の史跡めぐり」 講師：名嘉正八郎・知念勇（当館） 参加人員：41名 コース：大原貝塚、五枝の松、具志川城跡、上江洲家、太陽石、比屋定パンタ、久米島紬工房、蔵元跡
- <6> 第99回 9月25日（土）「宮古上布の話」 講師：大城志津子（琉球大学教授） 参加人員：85名
- <7> 第100回 10月16日（土）「博物館の歴史展示について」 講師：坪井清足（奈良国立文化財研究所長） 参加人員：100名
- <8> 第101回 1月29日（土）「考古学よりみた南島の葬制について」 講師：当真嗣一（教育庁文化課主任専門員） 参加人員：58名
- <9> 第102回 2月26日（土）「琉球の位階制度」 講師：宮里朝光（那覇市立城東小学校々長） 参加人員：73名
- <10> 第103回 3月26日（土）「沖縄の食制について」 講師：金城須美子（琉球大学助教授） 参加人員：29名

2 特別講演会

- <1> 10月16日（土） 午後2時～5時 参加人員：100名

文化講座100回記念講演：文化講座の項参照

- <2> 10月30日（土） 午後2時～5時 参加人員：86名

講師：細川護貞（永青文庫顧問） 演題「永青文庫と細川家」

〃：乙益重隆（国学院大学教授） 〃「考古学上からみた熊本」

<3> 11月13日（土） 午後2時～4時30分 参加人員：75名

講師：江坂輝彌（慶應義塾大学教授）演題「曾畠式土器文化の源流を韓国に訪ねて」

<4> 昭和58年2月12日（土） 午後2時～5時 参加人員：138名

講師：鈴木尚（東京大学名誉教授） 演題「港川人と日本人の起源」

3 特別企画

<1> 夏休み標本鑑定会 期日：昭和57年8月29日（日） 午前10時～午後3時

場所：当館1階ロビー 分野：岩石・鉱物・化石・植物・動物 鑑定専門員
：尾川原正司（琉球大学生物学科学生）、黒住耐二（琉球大学生物学科学生）、
佐藤文保（琉球大学生物学科学生）、大城逸朗（当館学芸員）、当山昌直（当館
学芸員） 備考：31件およそ480点の標本を鑑定した。

(6) 資料貸出

(1) 考古資料 1点貸出

期間：昭和57年5月12日～19日 名称：「考古展」

主催者：浦添市教育委員会 会場：浦添市市民会館

(2) 考古資料 嘉手納貝塚出土土器ほか30件貸出

期間：昭和57年10月26日～11月26日 名称：「考古展」

主催者：北谷町教育委員会

(3) 美術工芸品「虎の図」ほか36点貸出

期間：昭和57年11月6日～11月25日 名称：「沖縄の美—沖縄県立博物館名品展—」

主催者：読谷村・読谷村教育委員会・読谷村立歴史民俗資料館・沖縄県立博物館

(4) 琉球切手原画「チナヒチ」ほか14点貸出

期間：昭和57年11月24日～29日 名称：「1982年全琉切手展」

主催者：沖縄郵趣連盟 会場：那覇東郵便局

(5) 考古資料 「荻堂式土器」2点貸出

期間：昭和58年2月14日～59年3月31日 名称：「総合展示—日本のあけぼの—」

主催者：国立歴史民俗博物館 会場： 同 上

(7) 煙 蒸

例年実施している定期煙蒸は、7月5日（月）～7日（水）、12月4日（土）～6日（月）に行なった。各展示室はスミチオン酸煙霧による害虫駆除、1階収蔵庫・地下収蔵庫・漆器収蔵庫はメチルブロマイドによるくん蒸を行なった。

個人所蔵等の資料のくん蒸およびかけに対し、那覇市在住の安良城氏所蔵の辞令書・家譜等の古文書、北谷町教育委員会所蔵の民具、宜野湾市教育委員会依頼の家譜・貸借証文等の古文書、知念村教育委員会依頼の扁額等があった。

(8) 調査研究

本年度（昭和57年4月～昭和58年3月）の各担当職員の調査研究等の活動状況は、以下の通りである。

1 調査研究

名嘉正八郎（副館長）

4月：グスク調査（沖縄本島北部・南部、昭和58年3月まで随時）

58年3月：グスク調査（徳之島、9～12日）

上江洲 均（学芸係長）

4月：民具調査（浦添市、依頼、9月まで随時）

58年3月：年中行事調査（宜野湾市、依頼、随時）

宮城篤正（教育普及係長）

4月：陶磁器調査（石川市、依頼、5日）

6月：琉球漆器調査（大阪府、依頼、24～25日）

7月：密教美術・民俗調査（インドラダック、12～26日）

知念 勇（主任学芸員）

4月：グスク調査（沖縄本島北部・南部、58年3月まで随時）

8月：ガジャンビラ貝塚発掘調査（那覇市、依頼、1～4日）

文部省科研費による遺跡調査（沖永良部島、依頼、7～11日）

58年1月：カデナ基地内文化財調査（北谷町、依頼、10～13日）

3月：遺跡調査（北谷町、依頼、10～20日）

グスク調査（徳之島、9～12日）

大城逸朗（主任学芸員）

6月：洞穴内の鳥類化石調査および資料収集（北大東島、30～7月4日）

8月：地質および洞穴調査（伊計島、16日）

9月：ズケラン基地内文化財調査（宜野湾市、依頼、27～29日）

11月：ピンザップ洞穴発掘調査（上野村、依頼、27～29日）

12月：普天間宮化石発掘調査（宜野湾市、依頼、16～17日、20日、24日、28日）

58年1月：下地原洞穴化石発掘調査（久米島、5～8日）

上江洲敏夫（学芸員）

7月：歴史資料調査（平良市、多良間村、依頼、22～26日）

8月：歴史資料調査（石垣市、依頼、16～21日）

9月：墳墓調査（石川市、依頼、5日）

当山昌直（学芸員）

5月：生物資料収集（国頭村、12～13日）

9月：資料収集（宮古島・石垣島・西表島、12～15日）

58年1月：イリオモテヤマネコ調査（西表島、依頼、14～23日）

2 著作・論文

名嘉正八郎（副館長）

○「沖縄戦論」『近代日本の統合と抵抗』4、1982年6月。

上江洲 均（学芸係長）

○『琉球風俗絵図』<解説>本邦書籍株式会社、1982年3月。

○「沖縄の瓦造り—与那原瓦窯を中心に—」『沖縄文化研究』9、1982年6月。

○「久米島の年中行事」『沖縄久米島—沖縄久米島の言語・文化・社会の総合的研究—』
法政大学沖縄久米島調査委員会、1982年10月。

○『沖縄の暮らしと民具』考古民俗叢書（19）、慶友社、1982年12月。

○『琉球諸島の民具』民族文化双書 2（共著）、未来社、1983年3月。

○「渡名喜島の三十三年忌祭」沖縄民俗研究 4号、1983年3月。

○「浦添の民具」『浦添市史』巻4、1983年3月。

○「座間味村民俗小記」県立博物館総合調査報告書III一座間味村一、1983年3月。

宮城篤正（教育普及係長）

○「琉球美人図」（真栄城親雲上筆）、「士族とうやんまゝ図」「肉筆浮世絵」第10巻、
集英社、1983年3月。

○「金城次郎論」『現代日本の陶芸』第13巻、講談社、1983年。

○「座間味村の陶磁器」県立博物館総合調査報告書III一座間味村一、1983年3月。

知念 勇（主任学芸員）

○「考古学上からみた本部町」『本部小学校百年誌』1982年3月。

○「伊波式・荻堂式土器」『縄文文化の研究』6 縄縄文・南島文化、雄山閣、1982年
11月。

○「多和田真淳調査収集の考古資料（Ⅱ）」（多和田真淳と共同執筆）沖縄県立博物館
紀要 第8号、1983年3月。

大城逸朗（主任学芸員）

○「沖縄県久米島の下地原洞産ガンカモ類化石」（小野慶一・長谷川善和と共同執筆）
琉球列島の地質学研究 第6巻、1982年。

○「座間味島の地質」県立博物館総合調査報告書III一座間味村一、1983年3月。

○「琉球列島の鹿類とキヨン類化石の復元（琉球列島の古脊椎動物相—そのⅧ）」（長

谷川善和・野原朝秀と共同執筆) 沖縄県立博物館紀要 第9号、1983年3月。

上江洲敏夫(学芸員)

- 「琉球紙の歴史」安部栄四郎編『沖縄の紙』、沖縄タイムス社、1982年4月。
- 「<資料紹介>辞令書等古文書調査報告補遺(一)」沖縄県立博物館紀要 第9号、1983年3月。

当山昌直(学芸員)

- 「阿嘉小中学校に保管されている両生爬虫類の標本」AKAMATA No.1、1983年。
- 「ホルストガエルの渡嘉敷島からの記録」(共同執筆)前掲書。
- 「波照間島産オガサワラヤモリの採集例」(共同執筆)前掲書。
- 「沖縄群島の両生爬虫類相 一座間味村の両生爬虫類—」県立博物館総合調査報告書 III—一座間味村—、1983年3月。
- 「阿嘉島の動物の方言について」前掲書。

(9) 刊行物

刊行物名	種類	発行部数	規格・頁数	内容	発行年月日
第5回移動博物館	不定期	3,000	B5	展示資料を紹介したリーフレット	57年5月
第6回移動博物館 「新収蔵品展」	不定期 〃	5,000 1,000	B5 15	前年度に新規に入った資料を紹介する「新収蔵品展」の図録	57年5月
沖縄の昆虫	不定期	500	〃 14	企画展「沖縄の昆虫」の解説書	57年7月
沖縄県立博物館年報 No.15	定期 (年刊)	500	〃 61	前年度の博物館の活動状況報告	57年8月
博物館だより14号	定期	1,000	〃 4	博物館活動の近況報告	57年9月
熊本県の歴史と文化	不定期	1,000	〃 178	「熊本県・沖縄県交流展」の出品物写真と解説(図録)	57年9月
博物館だより15号	定期	1,000	〃 4	博物館活動の近況報告	58年3月
沖縄県立博物館	不定期	3,000	A6	博物館の展示を紹介したリーフレット	58年3月
図録「沖縄出土の中 国陶磁(下)」	〃	1,000	B5 173	ジョージ・H・ケラー氏が収集し、寄贈した中国陶磁の紹介(沖縄本島篇)	58年3月
沖縄県立博物館紀要 No.9	定期	1,000	〃 72	学芸員の調査研究報告	58年3月
県立博物館総合調査 報告書III	不定期	500	〃 46	座間味村の自然・歴史・民俗・文化についての総合調査報告書	58年3月
郷土の自然	〃	1,000	〃 84	自然室のガイドブック	58年3月

入館者数

月別入館者数（常設展）

	個 人				團 体				總 計				開館 日数	1 日 平均		
	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計				
57年4月	(7)	203	320	(7)	(220)	513	(19)	(239)	(227)	716	(19)	(246)	7,439	25	298	
5月	4,580 (44)	131	364	5,103 (44)	4,875	1,143 (458)	1,085	513 (458)	680	2,336 (458)	5,723 (502)	1,216 (531)	1,677 (36)	8,468 (502)	25	339
6月	3,590 (8)	90	260	3,940 (8)	987	523 (523)	489	564 (36)	2,040 (559)	4,577 (531)	579 (349)	824 (381)	5,980 (38)	25	239	
7月	4,950 (26)	629	2,356	7,935 (26)	523	91 (323)	112	726 (38)	5,473 (361)	720 (349)	2,468 (38)	8,661 (387)	21	412		
8月	9,290 (52)	1,367	5,578	16,235 (52)	618	314 (314)	860	2,083 (208)	2,643 (522)	9,908 (366)	2,227 (209)	6,743 (209)	18,878 (574)	26	726	
9月	2,750 (24)	258	258	3,266 (24)	787	185 (185)	247	756 (185)	1,790 (185)	3,537 (209)	505 (168)	1,014 (168)	5,056 (168)	24	211	
10月	2,496 (40)	97	95	2,688 (40)	238	128 (128)	210	647 (128)	1,095 (168)	2,734 (168)	307 (168)	742 (168)	3,783 (168)	14	270	
11月	特別展「熊本県の歴史と文化」のため常設展は休館															
58年12月	(15) 1,019	87	73	(15) 1,179	(144) 234	2,599	34	(144) 2,867	(159) 1,253	2,686	107	(159) 4,046	12	337		
1月	(30) 2,978	121	230	(30) 3,329	(122) 1,449	0	307	1,756	(152) 4,427	121	537	(152) 5,085	22	231		
2月	(15) 3,822	124	316	(15) 4,262	(103) 1,711	126	433	(103) 2,270	(118) 5,533	250	749	(118) 6,532	23	284		
3月	(23) 5,743	752	484	(23) 6,979	(249) 1,590	3,280	(206) 861	(455) 5,731	(272) 7,333	4,032	(206) 1,345	(478) 12,710	26	489		
計	(284) 45,598	3,859	10,334	(284) 59,791	(2,769) 10,475	9,500	(507) 6,872	(3,276) 26,847	(3,053) 56,073	13,359	(507) 17,206	(3,560) 86,638	243	320		

() 内は無料扱い

曜日別入館者数（常設展）

	個 人				團 体				總 計				開 設 數	1 日 平均		
	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計				
火	6,652	540	1,191	8,383	998	1,433	1,617	4,048	7,650	1,973	2,808	12,431	40	210	101	311
水	7,130	585	1,751	9,466	1,460	1,553	1,024	4,037	8,590	2,138	2,775	13,503	39	243	104	347
木	7,836	721	1,565	10,122	1,822	1,732	2,676	6,230	9,658	2,453	4,241	16,352	41	247	152	399
金	6,771	643	1,330	8,744	1,831	1,974	422	4,227	8,602	2,617	1,752	12,971	41	213	316	529
土	7,234	740	1,766	9,740	1,917	759	821	3,497	9,151	1,499	2,587	13,237	41	238	323	561
日	9,975	630	2,731	13,336	2,447	2,049	312	4,808	12,422	2,679	3,043	18,144	41	325	117	442
計	45,598	3,859	10,334	59,791	10,475	9,500	6,872	26,847	56,073	13,359	17,206	86,638	243	246	110	356

団体入館者数（常設展）

	県 内				県 外				國 外				總 計													
	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計														
年	團 體 數	團 體 人 員 數																								
月	1	18	1	28	4	574	6	620	27	963	4	485	5	26	36	1,474	6	162	0	3	80	9	242	51	2,336	
57年4月	1	271	1	29	14	1,009	20	1,309	22	870	7	1,056	3	117	32	2,043	2	54	0	5	187	7	241	59	3,593	
5月	5	397	2	205	10	408	20	1,010	12	434	5	284	2	156	19	874	5	156	0	0	5	156	44	2,040		
6月	8	150	0	4	103	10	253	6	243	1	91	2	9	9	343	4	130	0	0	4	130	23	726			
7月	6	204	1	2	12	432	26	638	6	269	3	858	4	719	13	1,846	4	145	0	3	14	7	159	46	2,643	
8月	13	82	0	3	756	6	838	19	532	3	247	0	22	779	6	173	0	0	6	173	34	1,790				
9月	3	1	32	0	6	647	7	679	3	157	3	210	0	6	367	2	49	0	0	2	49	15	1,095			
10月	11月	12月	1	103	1	25	1	34	5	162	5	131	14	2,574	0	192,705	0	0	0	0	0	24	2,867			
58年1月	1	36	0	2	191	3	227	32	1,339	0	4	17	36	1,356	3	74	0	0	5	173	44	1,756				
2月	2	56	0	3	430	15	486	40	1,611	2	126	1	2,431	739	2	44	0	1	1	3	45	51	2,270			
3月	3	60	1	62	6	602	10	724	45	1,504	25	3,195	15	184	85	4,883	1	26	1	23	4	75	6	124	101	5,731
計	46	1,409	7	351	65	5,186	118	694	217	8,053	67	9,126	36	1,230	320	18,409	35	1,013	1	23	16	357	541	492	492	26,847

特別展「熊本県の歴史と文化」入館者数

	個 人				団 体 (前売を含む)				招 待		無 料 (幼児含)	総 計
	一般	高大生	小中生	計	一 般	高大生	小中生	計	招 待	引 卒		
10月 30日(土)	266	5	33	304	2	140	0	142	8	5	30	489
31日(日)	588	28	149	765	154	0	0	154	10	1	77	1,007
11月 1日(月)			休		館		日					
2日(火)	282	3	12	297	4	48	578	630	98	58	67	1,150
3日(水)	0	0	0	0	1,168	39	466	1,673	15	0	141	1,829
4日(木)	284	5	4	293	31	0	576	607	59	23	5	987
5日(金)	193	2	2	197	0	0	98	98	17	5	44	361
6日(土)	256	13	12	281	23	91	34	148	7	9	30	475
7日(日)	452	13	177	642	21	1	4	26	13	0	43	724
8日(月)			休		館		日					
9日(火)	132	0	2	134	1	0	353	354	68	14	5	575
10日(水)	247	3	6	256	22	302	20	344	4	15	8	627
11日(木)	173	4	59	236	27	0	30	57	15	6	6	320
12日(金)	144	3	4	151	0	96	22	118	10	12	17	308
13日(土)	171	4	27	202	32	3	0	35	7	57	175	476
14日(日)	329	33	96	458	43	0	25	68	39	0	47	612
15日(月)			休		館		日					
16日(火)	93	1	0	94	121	0	547	668	50	33	27	872
17日(水)	143	6	0	149	49	0	378	427	190	35	20	821
18日(木)	170	6	1	177	6	0	77	83	13	8	15	296
19日(金)	126	1	0	127	39	0	152	191	9	13	6	346
20日(土)	185	7	20	212	9	25	235	269	69	11	14	575
21日(日)	379	4	110	493	123	0	27	150	21	0	67	731
22日(月)			休		館		日					
23日(火)	494	7	172	673	140	0	24	164	77	0	51	965
24日(水)	155	7	0	162	20	0	101	121	22	13	6	324
25日(木)	167	4	0	171	115	0	36	151	10	3	3	338
26日(金)	217	1	10	228	136	33	136	305	27	9	33	602
27日(土)	263	13	35	311	99	12	219	330	48	7	53	749
28日(日)	524	27	127	678	96	0	49	145	97	3	66	989
計	6,433	200	1,058	7,691	2,481	790	4,187	7,458	1,003	340	1,056	17,548

曜日別入館者数 (特別展)

	個 人				団 体				総 数				開館 日 数	1 日 平 均		
	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計	大 人	高 大 生	小 中 生	計		個 人	団 体	計
火	1,001	11	186	1,198	266	48	1,502	1,816	1,267	59	1,688	3,014	4	300	454	754
水	545	16	6	567	1,259	341	965	2,565	1,804	357	971	3,132	4	142	641	783
木	794	19	64	877	179	0	719	898	973	19	783	1,775	4	219	225	444
金	680	7	16	703	175	129	408	712	855	136	424	1,415	4	176	178	354
土	1,141	42	127	1,310	165	271	488	924	1,306	313	615	2,234	5	262	185	447
日	2,272	105	659	3,036	437	1	105	543	2,709	106	764	3,579	5	607	109	716
計	6,433	200	1,058	7,691	2,481	790	4,187	7,458	8,914	990	5,245	15,149	26	296	287	583

収蔵資料

総計

489

1,007

1,150

1,829

987

361

475

724

575

627

320

308

476

612

872

821

296

346

575

731

965

324

338

602

749

989

7,548

均

計

754

783

444

354

447

716

583

(1) 昭和57年度収蔵資料

昭和58年3月31日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然	地質	1	7			8	1,353
	動物	9	20	466		495	
	植物		850			850	
美術工芸	絵画					0	36
	書跡	9	7			16	
	彫刻		3			3	
	陶磁器	2	8			10	
	漆工		3			3	
	染織	2	2			4	
歴史		4	75			79	79
考古						0	0
民俗			87	3		90	90
合計		27	1,062	469		1,558	1,558

(2) 収蔵資料現在高

昭和57年3月31日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然	地質	628	271	7	2	908	5,353
	動物	875	2,254	466	0	3,595	
	植物	0	850	0	0	850	
美術工芸	絵画	59	79	1	0	139	4,208
	書跡	124	168	40	3	335	
	彫刻	4	22	138	0	164	
	陶磁器	415	757	251	490	1,913	
	漆工	219	119	156	0	494	
	染織	972	182	9	0	1,163	
歴史		399	1,040	280	73	1,792	1,792
考古		4	422	507	0	933	933
民俗		510	1,813	153	73	2,549	2,549
合計		4,209	7,977	2,008	641		14,835

(3) 昭和 57 年新収蔵品目録

寄贈の部

分類	品	数量	寄贈者	住所
美工(織)	菱花文緯絣腰巻	1	渡名喜明	与那原町
"(陶)	コバルト飴打中皿	1		那霸市
"(書)	使日雜詩	1	吉戸直	"
"(陶)	青磁大皿	8	"	"
民俗	子供用着物	4	"	"
歴史	書状	1	"	"
美工(陶)	木葉天	1	奥浜真昌	"
"(書)	硯	1	"	"
"(漆)	朱漆堆錦小箱鉢	1	上原之節	東京那都市
民俗	擂	1		
"	しちりん	1		
"	サギバ一キ一他	5	新垣良弼	"
"	碗(台湾製)	7	奥真昌	"
自然(地)	港川人頭骨(レプリカ)	2	大盛保淳	"
"	魚の化石	1	多和田真	"
"(動)	タガワニキヨン剥製	1	松本実楨	"
"(地)	鳥化	1	山健一	"
"	アンモナイト化石	1	仲定義	名那市
民俗	蠅取器	6	知崎智彦	宜野湾市
"	徳利	10	嶺美彦	那霸市
自然(地)	珪化木	1	志堅彦治	北中城村
美工(彫)	世持橋勾欄羽目(残欠)	1	堅嶺朝誠	"
自然(地)	貝化石	2	嶺幸人	里添那村
"(動)	タガマイイ剥製標本	1	本大宮	大那浦村
美工(織)	宮古上布着物	1	城嘉春	添那郡
民俗	ヒイ一ラ	2	城嘉美	那都勝市
"	汁杓子	3	比嘉昭一	那弘市
美工(書)	八田知紀和歌短冊	5	野伊藤	那州
歴史	小学校地理書(巻2)	16	西美子・隆	那京北市
"	唐拓	8	和子	那院弘市
美工(絵)	八重山風俗図	4	"	"
民俗	土偶	3	大城龍昭	宣野那市
"	護符	1式	大西来院	"
"	壺型厨子甕	2	大山朝英	"
自(地)	リュウキュウムカシキヨンの角(破片)	1	根本哲次	"
民俗	竹製漏斗	8	宮城正	浦添市
"(芸)	野村風工四他	12	山内彬	沖縄市
自然(動)	サキシマハブ	2	堀繁久	西原町

分類	品名	数量	寄贈者	住所
自然(動)	両生爬虫類標本	9	宮城邦治	宜野湾市
"	マダラトカゲモドキ	2	喜久里教達	那霸市
"	オリイオオコウモリ	1	丸山勝彦	"
"	ヒレングジヤク	1	西村昌彦	"
"	ミヤラヒメヘビ	1	豊見山元子	宜野湾市
"	イシカワガエル他	2	宇都宮妙子	広島県
(植)	沖縄産シダ植物標本	850	高良拓夫	那霸市
(動)	沖縄産昆蟲標本	1,920	東清二	"
民俗(芸)	三昧線盛嶋開鐘	1	尚裕	"
"	葡萄栗鼠文透彫大犀角	1	大城正裕	"
歴史	貨幣	39	翁長良明	"
"	紙	7	"	"

購入の部

分類	品名	数量
美工(陶)	赤絵対瓶	2
自(地)	重晶石	1
美工(陶)	大頭獅子	1
"(織)	上布着物(アヤヌナカ一)	1
"	上布着物(ムルドゥッチリ)	1
歴史	琉客談記	1
"	南浦文集	1
美工(書)	徐葆光書軸物	1
"	鄭嘉訓書軸物	3
"	鄭徳潤書軸物	1
"	陳元輔書卷物	1
"	汪楫書軸物	1
"	曾曆書軸物	1
"	白庵書軸物	1
自(動)	ニホンカモシカ剥製標本	1
"	八重山産イノシシ剥製標本	4
"	鳥類剥製標本	4

収集の部

分類	品名	数量
自(動)	ズアカアオバト	1
"	琉球列島産両生爬虫類標本	465
"(地)	ガンカモ類右胫骨遠位部の化石	1
民俗	米国製食器(碗)	1
"	ンムクジシリーオロシ金	1
"	米軍用水筒	1
"	物差	1

寄託の部

分類	品名	数量	氏名	住所
考古歴史	中國陶磁 銅鏡(和鏡)	110 1	多和田真淳 喜屋武長久	那霸市

(4) 図書寄贈者一覧 (順不同)

(博物館関係)			
大分県立	芸術会館	長崎県立	美術館
福岡市美術館	北海道立	立三好太郎	美術館
石川県美術館	山口県立	岸立美術	館
山岡県立博物館	平安安博	物	館
秋田県立博物館	愛知県陶磁	資料	館
青森県立博物館	枥木木立	物	館
市立名古屋科学館	丸名古屋市	立	館
東京国立博物館	リトリルワ	一	ド館
岐阜県立博物館	新潟潟田山	博	光
国立科学博物館	成奈良百年	靈	博物館
小松市立博物館	明治井田山	俗	館
下関市立博物館	福井県立	博	室
くすり博物館	家奈良百年記	設	室
神奈川県立博物館	具馬立馬	設	館
岩手県立博物館	群立馬	準	館
沼津市歴史民俗資料館	市立旭川	備	館
鹿児島市立美術館	名護馬	物	館
木本県立郷土資料館	奈良立川	物	館
松山市立子規記念博物館	八王子	立	館
兵庫県立博物館	八熊富士	博	物
船橋市郷土資料館	石垣市立	物	館
京都国立近代美術館	浜松市立	重	博物館
和歌山県立近代美術館	横浜市立	山	館
東京都市美術館	大阪市立	博	物
仙台市博物館	大山口	物	館
石川県郷土資料館	東京農工大学農学部附属纖維博物館	物	館
鹿児島県立博物館	瀬戸内海歴史民俗資料館	物	館
瀬戸内海歴史民俗資料館	サントリ一美微科学館	物	館
佐世保市文化科学館	市立斜里町立	川知床	物
岐阜県美術館	大和市立	川博	物
北九州市立美術館	大関西大学考古学系	華古學	資料
埼玉県立博物館	明治山形県立	等立	室

國立	民族	族學	博物	博物	博物	物館	館館
早稲田	大學	學演	劇鄉	博物	博物	博物	館館
旭川葉	立大	立川	根利	博物	博物	博物	館館
千葉大	阪市	立市	立自然	博物	博物	博物	館館
大出千	葉都	光縣	立美	術房	博物	博物	館館
京鉱茨	城立本	業縣	立近博	美房代	史博物	博物	物館
北熊浦	和路取	立市	立立	歷洋	史本	史博物	博物
浦釧鳥	立縣	立市	立立	立熊	博博	博物	館館
佐仙島	台賀	立縣	立立	立鄉	博博	博物	館館
京德対	都島馬	立縣	立立	立鄉	博博	博物	館館
福長宮	崎島政	立市	立立	立民	俗歷	博物	博物
平岡郵	町立	立宮	立立	立土	史博	博物	館館
豊岡崎	走塚	立省	立と	立信	俗博	博物	館館
東福宮	橋北岡	立市	立市	立鹽	の土	博物	博物
長	岡崎岡	立市	立市	立鄉	博術	博物	館館

千葉県立房総風土記の丘資料館	香川県文化会館
埼玉県立近代美術館	佐賀県民俗文化センター
岩国市立微古学館	富山県立九州陶磁文化センター
大津市立科学館	富岡市立科学文化センター
秋田市立美術館	岡山市立美術館
渡辺学園生活資料館	日滋本モニキ一琵琶湖文化の館
天理大学参観記念館	滋賀県立子爵陶州文化館
北海道立青函トンネル記念館	沖縄県立太宰府顕彰博物館
北海南道開拓記念館	西表市立種子島博物館
平和祈念資料館	(教育委員会関係)
埼玉県立さきたま資料館	沖縄県総務部広報委員会
倉敷市立敷地考古物館	沖城那伊東佐甘佐八浦添良繩川市教村教育委員会
大市立津山郷土美術館	瑞浪崎立化立石博物館
ブリヂストン美術館	尼崎市立学校
瑞尼斯市立文化立石博物館	立花屋吉良市立学校
尼国名立古屋市立学校	立花屋吉良市立学校
滋賀県立近江風土紀の丘資料館	茨城県立博物館
憲政記念館	宮大谷記念美術館
西横浜開港記念資料館	藤原啓記念館
藤船の立科中央博物館	立本博中央博物館
船国日科鳥博博物館	立本博中央博物館
博物館等設立本博博物館	立本博中央博物館
小樽市博物館	奈川県博物館
神奈川県博物館	口川県博物館
山口県博物館	冲縄県博物館
全国科学博物館	全国科学博物館

久	留	市	教	育	委	員	會
太	宰	府	教	育	委	員	會
宗	像	町	教	育	委	員	會
世	市	教	育	委	員	會	會
津	谷	区	教	育	委	員	會
神	市	教	育	委	員	會	會
丸	川	縣	教	育	委	員	會
東	岡	町	教	育	委	員	會
沖	京	都	教	育	委	員	會
長	繩	史	料	編	集	所	會
嶺	崎	縣	教	育	委	員	會
静	岡	磐	田	郡	佐	久	間
福	岡	市	教	育	委	員	會
筑	紫	教	育	委	員	會	會
平	塚	市	史	編	さ	ん	課
沖	繩	縣	ユ	ネ	ス	コ	協
平	良	市	史	編	集	事	務
那	霸	市	役				局
文		化					所

(学校関係)

筑	波	大	学	芸	術	会
別	府	大	学	書	部	部
宮	内	立	青	陵	志	志
国	立	教	年	の	頭	頭
立	教	大	物	家	村	小
筑	波	大	博	學	立	學
琉	球	大	物	研	具	法
横	大	學	館	究	志	文
琉	浜	國	地	室	鹿	學
横	正	立	球	系	児	校
琉	正	大	科	學	東	部
明	治	大	學	系	嵯	京
武	藏	大	教	部	峨	大
東	廣	大	養	部	武	學
北	海	大	廣	學	修	藏
神	海	學	報	院	道	野
奈	學	園	委	大	大	美
国	大	大	員	附	繩	術
			会	屬	生	美
				圖	物	術
				書	院	大
				館	學	學
					長	研
					の	究
					協	校

法	政	大	學	沖	繩	文	化	研	究	所
鹿	兒	島	短	期	大	國	史	學	研	究
龍	兒	島	學	大	學	史	研	究	所	會
鹿	兒	島	立	國	圖	書	美	分	研	究
法	政	大	學	學	部	館	考	古	學	室
國	學	院	大	學	博	物	研	究	研	室
東	京	大	學	學	總	合	研	究	研	室
沖	國	大	學	部	考	古	學	研	究	所
成	城	大	學	民	復	研	究	研	究	所
花	園	大	學	俗	修	研	究	研	究	所
沖	繩	大	學	學	學	研	究	研	究	所
國	學	院	大	部	考	古	學	研	究	室
東	京	大	學	部	考	古	學	研	究	室
創	形	美	術	大	學	修	復	研	究	所
沖	繩	縣	立	學	立	圖	書	研	究	館
熊	本	大	學	文	學	部	考	古	學	館
東	京	農	業	大	學	圖	書	研	究	校
東	亞	大	學	大	學	圖	書	研	究	館
岩	手	縣	立	學	立	圖	書	研	究	園
渡	迈					學				
青	山	學	院	文	學	部	史	學	科	研
琉	球	學	院	學	學	農	學	學	研	究
具	志	學	院	志	學	志	頭	小	學	部
鹿	兒	學	院	頭	學	志	頭	學	科	校
東	京	大	學	大	學	史	料	編	集	所
嵯	峨	美	術	學	學	編	集			大
武	藏	野	美	術	學	大				學
廣	島	修	道	大	學	人	文	學	研	究
沖	繩	繩	生	學	院	物	教	學	會	校
帝	塚	山	學	院	大					
沖	繩	縣	高	等	校	長	の	協		
別	府	大	學	ア	ジ	ア	歴	史	文	
浦	添	小	學	ジ	ア	ジ	文	化	研	

(研究機関)

全	日	本	著	作	家	協	會
岡	山	民	俗	學			

財團法人工芸学会	会	タ	一
国際科学技術博覧会協会	会	タ	団会所会所
地質調査所	会	タ	会所
沖縄県伝統工芸指導所	所	セ	タ
日本美術家連盟	所	掘	タ
奈良国立文化財研究所	所	研	タ
広島県草軒町遺跡調査所	所	究	タ
T K C 全国政経研究会	所	の好	タ
宮古郷土史研究会	所	務	タ
横浜市埋蔵文化財調査委員会	(個	事	タ
石川県白山自然保護センター	人)	セ	タ
Washington international center		ン	タ
東京都埋蔵文化財センタ		タ	
京都府埋蔵文化財センタ		一	
浜松市遺跡調査会	会	幸	
与那良遺跡調査会	團	夫之	
朝霞市泉水山・下ノ原遺跡調査会	会	信勇	
沖縄地域科学研究所	所	誠榮	
日本洞窟学会	会	夫一	
公害衛生研究所	所	明子	
鹿児島民具学会	会	祐均	
日本貿易陶磁研究所	所	正子	
長崎県窯業試験場	所	正	
東京国立文化財研究所	所	子夫	
主婦運動美術協会	会	作郎	
沖縄県民俗芸能保存会	会	忠雄	
沖縄県立精神衛生センター	会		
東城レ科学振興会	会		
南北訪書会	会		
日本文化研究所	所		
沖縄県工業試験場	場		
近畿民具学会	会		
群馬県理蔵文化財調査事業団			
沖縄地理学会			
奈良国立文化財研究所			
葉園寺久興寺	文化化	財	
徳元興重繩	境内	發	
冲應用岡方	郷島山昆地	研	
(個人)	文化野蟲質埋	究	
外天保亀知島兼上照宇伸新上宮生山中名窪原(その他)	文化山昆地學	料	
間野田川念島兼江都江城田岸川嘉田(その他)	財同調查研究會	タ	
正鉄洋恵島州屋宮嶺城洲城田岸川嘉禹	の好務	タ	
天保亀知島兼上照宇伸新上宮生山中名窪原(その他)	事務	タ	
信敏栄泰俊徳篤光素伊正徳八	セ	タ	
勇誠榮夫一明子祐均正子夫作郎忠雄禹	タ		
幸夫之信勇誠榮夫一明子祐均正子夫作郎忠雄禹			
社團院			

時	事	日	本	新	聞	社	岩	波	書	店
自	由	中	国	週	報	社	西	日	本	社
創	価	學	會	廣	報	室	(株)	鐵	道	社
ダ	イ	ジ	エ	ス	ト	社	講	株	式	社
東	京	デ	ザ	イ			新	談	會	社
奈	良	県	觀	光	新	社	聞	聞	書	所
							城	北	訪	會
							海	洋	記	公
							朝	日	念	園
							オ	キ	新	事
							ジ	ナ	聞	務
							バ	ワ	ラ	聞
							ヤ	パ	グ	聞
								ン	ル	信
近	畿	日	本	ツ	一	リ	オ	キ	通	信
沖	繩	繩	繩	協			ジ	ナ	フ	
染	織	織	織	と	生	活	バ	ワ	ラ	
日	本	国	国	際	連	合	オ	パ	グ	
沖	繩	総	総	合	事	務	ヤ	ン	ラ	
丸	の	内	内	画						
新	匠	工	芸	会	、	京	久	本	美	術
東						都	米	島	新	聞
広						書	道	美	新	聞
株	式	会	社				ビ	ジ	ス	版
北	会	陸					ジ	ネ	教	事
ナ	ガ	セ	フ	オ	ト	忠	那	霸	育	業
沖	繩	繩	繩	歌	舞	放	原	大	民	館
西	陣	だ	よ	り		サ	小	流	化	部
琉	球	銀	行	人		ロ	商	光	國	部
イ	ン	フ	オ	一				觀	領	課
至	本	專	壳	公	社					
日	交	成	壳	社	沖					
ホ	ル	ベ	イ	出	繩					
熊	平	工	イ	版	事					
在	沖	上	野	村	業					
読	壳	新	聞	新	局					
金	秀	鐵	工	西	社					
總	務	部	行	部	社					
北	金	海	道	政	課					
近	城	報	恩	管	理					
		代	情							

(5) 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表

(1) 国指定文化財 重要文化財

昭和 58年 4月 1日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書典籍	お も ろ さ う し 混 効 驗 集	22 冊 2 冊	昭 48. 6. 6	県立博物館 "	沖縄県 "
工芸	銅 鐘(旧首里城正殿前鐘) 梵 鐘(旧円覚寺殿前鐘) 梵 鐘(旧円覚寺殿中鐘) 梵 鐘(旧円覚寺樓鐘)	1 口 3 口	昭 53. 6. 15 " " "	県立博物館 " " "	沖縄県 " " "

(2) 県指定文化財 有形文化財

種号	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫 刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書	1 軀 1 枚	昭 33. 3. 14	県立博物館	沖縄県
"	世持橋勾欄羽目	1 括	"	"	"
絵 画	絹本着色花鳥図(殷元良筆)	1 幅	昭 54. 4. 9	県立博物館	沖縄県
"	紙本着色雪中雉子の図(殷元良筆)	"	"	"	"
"	紙本墨画竹の図(殷元良筆)	"	昭 57. 4. 1	"	"
"	紙本着色奉使琉球図(朱雀年筆)	1 卷	"	"	"
工芸	三味線江戸与那	1 挺	昭 33. 8. 15	県立博物館	沖縄県
"	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1 本	昭 33. 3. 14	"	"
"	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1 合	昭 31. 12. 14	"	"
"	黒塗堆綿山水絵大文庫	"	"	"	"
"	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1 口	"	"	"
"	枝梅竹文赤絵椀	"	昭 54. 9. 3	"	"
"	線彫染付魚文皿	"	"	"	"
"	色象嵌粟絵菊花皿	"	"	"	"
"	象嵌色差面取抱瓶	"	"	"	"
典籍	評定所格護定本 中山世鑑 " 中山世譜	6 冊 19 冊	昭 31. 12. 14 "	県立博物館 "	沖縄県 "
古文書	宮古島下地の首里大屋子への 辞令書 明孝宗より琉球國中山王尚真 への勅書 伊平屋島仲田の首里大屋子へ の辞令書 羽地間切の屋我のろへの辞令書	1 幅 1 卷 1 幅 1 幅	昭 31. 12. 14 昭 49. 11. 11 昭 53. 4. 1 昭 56. 3. 30	県立博物館 " " " " " "	沖縄県 " " "

当館関係条例規則（抄）

○沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年5月15日） （条例第24号）

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を取集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次とおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日） （教育委員会規則第2号）

最終改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第1号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第2条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の係を置く。

庶務係

学芸係

教育普及係

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (8) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (9) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (10) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (12) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。
- (13) 前各号に定めるもののほか、博物館に関する必要な事務に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日） 〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに公布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（管理の責任）

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

（諸帳簿）

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現状を明らかにしておかなければならぬ。

（施設設備の亡失）

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

（警備防災の計画）

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるものほか、宿日直勤務については、職員服規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄託を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なとき限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年9月28日教育委員会規則第5号）

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	昭和年月日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
	住所 氏名 印
私所有的下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種別	1 種別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附属品	5 附屬品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 時価見積額	7 時価見積額
8 寄贈の理由	8 寄贈の理由

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申請書	昭和年月日
沖縄県立博物館長 殿	申請者
	住所 氏名 印
私所有的下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。	
記	
1 種別	1 種別
2 作者名	2 作者名
3 作品名	3 作品名
4 製作年月日	4 製作年月日
5 附屬品	5 附屬品
6 資料の所在地	6 資料の所在地
7 寄託期間	7 寄託期間 昭和年月日から 昭和年月日まで
沖縄県立博物館長 印	

第3号様式（第11条関係）

第4号様式（第18条関係）

博物館資料受託承認書	昭和年月日	沖縄県立博物館長 殿
1 種別	記	
2 作者名		
3 作品名		
4 製作年月日		
5 附属品		
6 受託期間	昭和年月日から まで	
7 備考		

博物館施設使用許可申請書	昭和年月日
申請者氏名	(印)
電話	
下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださいようお願 いします。	
記	
1 使用者	団体名 _____ 及び 代表者名 _____ 印 職業() 住所 _____ 電話 _____
2 使用目的	
3 使用する施設：1ホール	2 臨時陳列室
4 使用する日時及び期間	自：昭和年月日 時 分 () 至：昭和年月日 時 分 日間
5 予定参加人員	人
6 その他必要な資料（プログラム等）	
許可書	月日付申請の()使用の件、申請どおり許可します。
昭和年月日	沖縄県立博物館長 (印)

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日
教育委員会規則第29号）

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日）
（条例第37号）

最終改正 昭和54年3月29日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年3月29日条例第16号抄）

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和54年4月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一般	100 円
大学生及び高校生	50 円
中学生及び小学生	20 円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館

沖縄県立博物館年報 No.16 (昭和57年度)

昭和 58 年 9 月 15 日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町 1 の 1

▼903 TEL : 0988-84-2243

印刷 文進印刷株式会社

住所 那覇市上間 567

TEL: (代) 0988-55-2323